

---

# 明久と水泳と幼なじみ

バカと不幸

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

明久と水泳と幼なじみ

### 【NZコード】

N8529X

### 【作者名】

バカと不幸

### 【あらすじ】

この作品の始まりはまさかの明久帰国？

今僕はアメリカのサンフランシスコ空港に僕達はいるよ  
何でいるかってこれから帰るんだよ日本に

PV67000達成！ユニーク数10000人突破！ありがとうございます！

本当にありがとうございます！

現在清涼祭編です！

## 明久帰国！－！－（前書き）

今回オリジナルの小説を書きます

## 明久帰国！－！－

今日もいつもとは違う朝の感じだ現在僕は飛行機の中にいる。

現在時刻は日本時間 PM 13時 27 分僕達はアメリカにいたから凄い眠いよでも起きなきゃ そろそろ着くし。

横には僕の幼なじみがいるこの子の名前は《上藤愛子》 緑色の短い髪で性格は明るく元気な性格の女の子。

何故飛行機に乗っているか？それは僕達は水泳のジュニア世界大会と何か世界的に有名な人が教えてくれるらしいから行つたんだ。一応僕 free は凄く早いんだからね！

確か愛子は平泳ぎが早かつたよタイムは…………忘れちゃたまあいつか…おつと…起こしてしまつたようだ。

愛子「ん、アツキー起きたの後どれくらいでつくかな？」

明久「後8時間ぐらいかな」

愛子「懐かしいなあ日本一年ぶりだもんね」

そつか文翔学園も中等部じゃなくて高等部だもんなそーだクラスも成績でかわるシステム何だよね。

愛子「元気にしてるかな優子とか翔子とか唯とか」

明久「元気にしてるよ皆ね

愛子「ねーねアツキー テスト大丈夫だよね」

明久「当たり前じゃん」

そう帰つたら僕達は《文月学園》のクラス分け試験が待つているのだ。

最悪だよ明日だよ、もつ帰つたらゲームやりたかったのに……

愛子「明日ゆっくり寝たかったのになあ…せとどだつたら勉強しよ、勿論《保健体育》だよ」

明久「が、頑張つて愛ちゃん僕は古典とか勉強しよ」

愛子「了解したよアツキー」

愛ちゃんは《保健体育》が好きなんだよね。楽しみだな皆さん会えるの今頃なにしてんだる。

-----  
その今頃・東京ラウンドワン内のゲームセンター

?「そーえば明久今日の夜帰つてくるじゃ」

そう言つたのは赤色の髪で長身の男の子の子の名前は坂本雄一中等部の時のあだ名が《悪鬼羅刹》といつあだ名だよ。

あの時は喧嘩ばかりやつてたつていう噂もあつたしね。

雄二「しかしあの水泳バカ帰つてきても『クラス確定だな』

?「…同感だバカの代名詞だからな」

この子の名前は土屋康太何かつかみ所の無い雰囲気を出した男の子  
だが実際はプロレベルのカメラの腕速さから『現代に蘇った忍者』  
といわれている。

康太「…どう思う秀吉」

秀吉「やつじやな!藤といったから少しは勉強できるかもしれんぞ」

見た目はどこから見ても美少女しかし実際は男の子かつじーさん言葉を使つてしゃべる特技ともいえるのがどんな声量も自由自在に出せる喉簡単にいうとモノマネが得意。

雄二「あいつの事だバカは死ななきや変わらないっていつんだから  
変わらんだろ」

康太「…なんとも言えない」

秀吉「まあ明日聞けばよ」ではないか

康太「…そうだな」

そんな話をしていると横から

?「あのぉー明久君の友達ですか?」

雄一「明久って吉井明久の事か？」

？「そーです！明日帰つてくるつて本当ですか」

秀吉「そひじやがというかオヌシ誰じや？」

秀吉がその女子に聞くと

？「『めんなさい私は《吉井明菜》と言います』

雄一「ん、吉井？」

優香「はい明久の妹です！」

優香は携帯を開くとビックリつていう顔をして。

明菜「すいません急用ができました！引き止めてすみません」

深いお辞儀をすると走つていつてしまつた。

雄一「…一体何だつたんだアイツは」

康太「…台風みたいだつた」

秀吉「…そうじやな明久にまさか妹があつたとは知らんかった

秀吉がそういうと、康太は携帯を出して。

康太「…いた俺のメモつた日記に書いているだ

雄一「何でそんなのメモってんだ?」

秀吉「その前に何故オヌシはそんな情報を知ってるいるのじゃ」

そんな秀吉の言葉はむなしく誰にも届かなかった。

康太「…昔日記にハマっていた、今も付けている」

雄一「…そつだつたのか、知らなかつたは」

康太「…まあな、とりあえず今は遊ぼう

康太は携帯の電気を消した。

秀吉「そつじやな、遊ぶかのぉー」

雄一「だなさあ次はドラムの達人で勝負だ!」

明久帰国まで7時間42分…長い

## 明久帰国！――（後書き）

作者「どーもバカと不幸です新作ですよ新作」

明久「作者がここにでるなんて珍しいな」

作者「珍しい？よくきづいてくれた！他にも来てくれたの」

明久「きてないよ」

作者「ぐはあ！」

登校日（前書き）

スイマセンがテストの所飛ばします

少し昔の話をしようつ

2日前のテストの日は何もなく普通な日が続いた何故か知らないが雄一、秀吉、マッシリーーとか昔遊んでいたメンバーにも会わず登校日が来た。

だが此処で最大のミスを起した

僕は今夢の中にいる何故分かるかよく分からぬけどそんな感じがするからだ。

? 「 く …… ないと …… ある …… 」

誰? ううねむこ………… よまだ起しきなこでよ………… うわ! …… 僕は突然誰かに毛布を奪われた。

愛子「遅刻しちゃうよアッキー!」

僕の目の前では愛ちゃん《 いと藤愛子》(現在阿修羅状態)が毛布(僕の)を脇に抱えて「立たちして」いた。

あ、阿修羅が見えるのは何故だろ怖いよあ、愛ちゃん

明久「い、いめんめん朝飯は……こいやー行つー!」

愛子「その格好で行くの?」

どんな格好つてもちろん制帽……

明久「そっか今起きたんだもんな…………やっぱ…………い…………」

危ないパジャマで行くというだつたよつて遅刻するよ…………

愛子「今頃気づいたの早く準備して……はい」制服

明久「先に外出してほら早く！」

流石に幼なじみにパンツ一丁の僕は見せられないよ

当たり前でしょ！僕はまだ変態じやないもん…………まだつていつと  
しからなるみたいじやないか…………

まあ早く着替えるか

-----

明久「よし行くか！」

そうえば今何時なんだろ

明久「愛ちゃん今なん時？」

愛子「8時16分だよ、遅刻ギリギリ前に着くか着かないかぐらい  
じゃない」

ヤバいなあ僕は遅刻でも愛ちゃんを遅刻にするわけにはいかないし  
こーなつたら走るか！

明久「僕の手に掴まって…走るよ！」

愛子「えつーん」

全速力で僕達は文月学園に向かっていった途中の道で軽く走っている雄二、秀吉、康太に会って合計5人で走っていった。

走つたおかげでなんとか遅刻せず学園に着くことができた。

そうえば何でテストの時雄二達いなかつたんだろう？

雄二「それはな、俺達中等部からいるものは退学とかにならない限り高等部に自動入学できんだよ後テストはもう受けたからな」

明久「へえそんなんだつて！何で僕の考えに答えてんの？」

えつ雄二つてテレパシーの能力なんて僕がいない間に身につけたの！

康太「…顔に書いてある」

「どうゆうひこと？顔？」

秀吉「そういうわけで、顔を触る明久はバカじやな」

明久「何と失礼な僕はもうバカじやないんだから

愛子「まあ一年もアメリカにいれば英語は少しは出来るようになるよね」

「は慰めるといひだよ愛ちゃん！少しつて酷くない。

雄一「まあいい行くか、つい一す西村先生」

西村「挨拶は《つい一す》ではなく《おはよついぞこます》だろ」

西村「遅刻しなかつただけまあいいが」

明久「Hello M . NISHIMURA」

西村「明久よこは日本だ」

愛子「それよりテストの結果を」

西村「すまない工藤の馬鹿達の世話をするのが田課になつてしまつてな」

西村は脇に抱えていた箱の中から《工藤愛子》《吉井明久》《坂本雄一》《木下秀吉》《土屋康太》と書いてある封筒を出して皆に渡した。

皆に封筒を渡すと西村先生は明久に向かつてしゃべれかけてきた。

西村「吉井よお前はアメリカに行つて学力もかなり変わったな特に《英語》が」

雄一「ふんつ上等だあ！」

秀吉「行くかのウシらの教室に」

康太「…行くぞ雄一、秀吉」

明久「よかつたギリギリだったのかな？」

愛子「まあ当然だね！行こアツキー」

明久「良かつたあ～さてと、行きますか」

今回のテスト結果は、雄一秀吉康太はFクラス明久はギリギリAクラス愛子は当然Aクラス

そんな中一人皆より先に移動して別の場所に来ていた。

その男は赤い髪をした長身の男そう、『坂本雄一』だ

そして雄一は小声でこう呟いた

雄一「行くぞAクラス、設備は頂く」グツ

Aクラスの前で一人拳を出した後ポケットに手を突っ込みながらFクラスに歩いて行つた。

登校日（後書き）

気にいってくれたなら評価をしていただけないと光栄です

感想も待ってます

オリジナルキャラクター募集中です

せひぜひどうぞ！

よろしくお願いします！

この後は試験召還戦争編です！

## Fクラスの設備と優等生の仲間達

雄一が教室に入ろうとするとき後ろから突然声をかけられた。

？「雄一何でいるの……此処本当に教室？」

雄一「ん、確かにそつだがおまえとはかけ離れた場所だろ『お嬢様』」

『お嬢様』と呼ばれた女の子はそつ言われるのが嫌なのか顔を真つ赤にして

？「雄一そのあだ名で私を呼ぶな！私は『獅童梨香』だ忘れるなよ

雄一「！」

獅童梨香この女は俺の幼なじみで実際の学力はAクラス並しかしテスト当日風邪で欠席なためFクラスに

梨香「行くよ雄一」

雄一「了解了解」

そして俺と梨香が入ると突然カッター、ハサミなどが飛んできた。

雄一「ど、どうした『FFF団』？」

モブ1「女と一緒に来るなどおぞましい殺す！」

モブ2「異性と登校とは殺す！」

? 「暇つぶしとノリとテンションで殺す」

クソがFFF団の存在 자체忘れていた……何か変なの混じつてなかつたか

? 「よお雄一相変わらず朝から元気だな」

雄一「帰り何か奢るから助ける!」

雄一がそう言つたその男はニヤリと笑い

? 「その話のつた!」

モブ1「何だと!お前グハア」

モブ1が喋り途中の時男はラリー・アットを繰り出した。

? 「この『西園寺竜也』に勝てると思つてんのかケンカで

モブ2「ハツハハ完敗だよ雄一」

モブ2は突然雄一の顔を見て笑い出した多分笑つてるんだろう。

何故分からぬのか顔にマスクをしているからだ

? 「ハツハハFFF団にはノリで入つたがただの非リア充の嫉妬じやないかまあ俺には関係ない無いが」

モブ1「どうゆう意味まさか! お前! リア充かあ!」

？「期待を裏切つて悪いが俺は彼女はない」

モブー「なら私達と同種族ではないか」

？「別にいいじゃねーか女と話そうが俺達には関係ないだろ」

そんな若干ケンカになりそうな所で扉が開いた。

福原「えー皆さん座つてください朝のHRを始めますよ」

ふと時計に目を落とすと時刻は8時40分だ

雄一（そつが高等部はHRの時間が早まるんだよな

福原「えーおはようございます一年F組担任の…………福原慎ですよ  
ろしくお願ひします」

このクラスはチョークさえ用意されないのでこのAクラスとの  
差は！

福原「まずは設備の確認をします」

卓袱台

座布団

福原「えー不備があれば申し出でください」

教室は何も言わなかつたいや言えなかつた正確に言つと声が出なか

つた。

福原「無いですね」

福原「では自己紹介でも始めましょうか廊下側の人からお願いします」

先生がそう言つと端つこの席に座る男いや  
『男の娘』が席を立つた。

秀吉「木下秀吉じゃ演劇部に所属してある今年一年よろしくな

秀吉の説明かどちらにしろ代表の俺は最後だな。

康太「…どーも土屋康太だ趣味は盗…何でも無いよろしく」

本音が出るとこりだつたなムツツリー＝盗撮とか言おうとしたんだ  
な。

竜也「えー俺の名前は西園寺竜也趣味として八年間合気道をやつて  
いたよろしく」

その後何人か続いた後眠たくなつてきた俺は若干ウトウトしていた。

その時知つてゐる声がした

梨香「私の名前は獅童梨香だ男っぽい性格は昔からなので気にする  
な一年よろしく」

だる口イツとは関わりたくないな昔から面倒な奴出し

梨香「忘れていたがそこの赤髪男とは幼なじみだ手を出したらぶつ殺す」

次の番のヤツはさつきの偽物FFF団の奴か一体誰なんだ？

？「いやいや俺の名前は……どーでもいいか趣味は泳ぐ事そうだ！俺の事は『レッククス』って読んでくれよろしく！」

福原「……えー最後は代表の坂本雄一く「遅れましたーーー！」来ましたか『松村空』君登校初日から遅刻ですか」

空「ハアハア……えー俺の名前は松村空『松村財閥』の副代表を務めているFクラスに入るのは面白そうだからよろしく！」

まさかの金持ちか人は見かけによらないって誰かが言つてたからな

雄一「最後でしたね先生、Fクラス代表の坂本雄一だ代表でも坂本でも好きに呼んでくれ」

皆「…………」

真剣に聞いてくれてるなら結構ださて続きを話しますか

雄一「さて皆さんに質問だ『折れかけた卓袱台』『ひび割れていたり割れている窓ガラス』『綿が抜けたり破れている座布団』がこの教室の説明だな、ではAクラスの説明だ『冷暖房完備』『リクライニングシート』『個人用冷蔵庫兼工アコン』いくら学費が安いからつておかしくないか？」

雄一の意見に賛成のよつで皆顔を上下していた。

雄一「では再度聞く、「不満は無いか？」」

皆「大ありだあああああーーー！」

「クラスの魂の叫び声が響いたいや、自分で言うのは何だが今俺す  
げー悪い顔してん

梨香「悪い顔してんな雄一」

雄一「俺の意見を言う」コレよりFクラスは《試験召還戦争》をAクラスに申し込む」

この発言の後Fクラスの空気が凍りついた、まあ笑ってる者やニヤリと薄く笑っている者もいたが。

福原「若いついでいいですね」

何言つてんじやが、ハア生徒も生徒じやが先生も先生じやな

そう考へた秀吉の考へはもう誰にも届かなかつた。

■クリスマスの設備と優等生の仲間達（後書き）

オリジナルキャラクター募集中です

評価 登録 感想お待ちしています！

## 人物紹介1（前書き）

緊急ですが人物紹介始めます

## 人物紹介1

吉井明久 ヨシイアキヒサ

所属クラス Aクラス

size 162

特徴

原作とは違い勉強もまあまあできる。しかしアメリカに一年間いたため英語が先生も抜く事もある。

召還獣

明久を小さくした感じ

装備

武器 暗殺刀（何かハンパな形をしている）

防具 学校の制服だが右肩の部分にドクロのマークがついている

? 腕輪

工藤愛子 クドウアイコ

所属クラス Aクラス

h.i.bgn152

3 s i z e    B 7 8    W 5 6    H 7 9

特徴

原作と同じで明るい性格だが下ネタ発言や爆弾発言は少なくなってる。

召還獣

愛子を小さくした感じ

装備

武器 首切り包丁（形がおかしい）

防具 学校の制服だが左肩に羽根のマークがついている

腕輪

『雷鳴』

自分の武器に電気をまとわせる事ができる

Fクラス

坂本雄一 サカモトユウジ

所属クラス Fクラス

h.i.bgn178

## 特徴

実際はAクラス並みの学力を持つも『点数こそ全て』といつ事が嫌いでチームワークを大事にしている。

頭の切れは原作よりも進化している。

召還獸

装備

武器 ナックル

防具 改造学ラン

腕輪

『鴛鴦』

エンオウ

自分自身の武器に炎をまとわせる。それを投げることや火炎放射する事もできる。

実際一番使い勝手がよく未だ新技ができるかもしない。

木下秀吉 キノシタヒヂコシ

所属クラス Fクラス

特徴

見た目は美少女中身はおじさんというギャップを持った少年。

頭はそれほどよくないが演劇部に所属しているだけ合つて声真似が上手い。

召還獣

装備

武器 薙刀

防具 裡

腕輪  
?

土屋康太 ツチヤコウタ

所属クラス Fクラス

height 159

特徴

ほぼ全ての言葉に「…」つく寡黙な性格。

保険体育の成績ではAクラスの成績優秀者もしのぐ学力しかし他の教科は壊滅的で昔の明久よりも低い。

召還獣

装備

武器 小太刀（忍者刀）

防具 忍者の服

腕輪

『加速』

獅童梨香 シドウリカ

所属クラス Fクラス

height 164

3 size B 86 W 58 H 83

特徴

黒いロングヘアをポニーテールしている目は青色

見た目は美少女なのが口調が男っぽく性格も男っぽい。成績は英語がAクラスレベル

召還獣

装備

武器 鎖鎌

防具 甲冑

腕輪

?

西園寺竜也 サイエンジリュウヤ

所属クラス Fクラス

height182

特徴

灰色の髪で筋肉質の体で長身

いつもノリとテンションで行動しケンカが強いその強さは《阿修羅》と言われた雄一を瞬殺できるほど。

しかし頭は残念で数学以外は壊滅的。

召還獣

装備

武器 素手か短刀

防具 ガ ツスーツみたいな感じ

腕輪

無し（無くとも身体能力が高い）

錦戸赤龍（レックス）ニシキドヒロユウ

所属クラス Fクラス

height 160

特徴

茶色の髪に茶色の目で身長は明久ぐらい顔は結構かっこいい  
かなりのめんどくさがりやで名前さえも自分で名乗らない  
よく分からぬ謎のキャラクター

召還獸

装備

武器 不明

防具 不明

腕輪

『正体不明』

腕輪発動中はダメージを受けない。

破壊された部位は強化され復活される。

攻撃力防御力とも爆発的に上がる

松村空 マツムラソラ

所属クラス Fクラス

height 167

特徴

青い髪に紫色の田原姿は完璧だが少し何かが抜けている男

松村財閥系の副代表であり当然金持ち。

性格は適当という言葉が似合う男学校は車で来るが遅刻している。

実際は結構頭はいい。

召還獣

装備

武器 金の剣（長刀）・銀の拳銃

防具 ブランド物のスーツ（防弾防刃）

腕輪

『死角攻撃』 キルオフェンス

敵の後ろに勝手にテレポートして攻撃できる。

## 人物紹介1（後書き）

オリジナルキャラクター募集中

## ある意味チームワーク？

雄一「後みんなに報告しなくちゃ いけない事がある」

梨香「何を言うんだ勿体ぶらないで早く言え」

梨香が若干怒つてるのでニヤリと笑いながら

雄一「皆さん」存知の通り元バカ《吉井明久》が帰ってきた、しかし私達は明久を素直に祝福できないのだ」

秀吉「なる程明久は《彼女》をつくったのじやな」

その言葉に雄一は目を丸くしていたが教壇を軽く叩いて

雄一「正解だ秀吉ー異端審問会いやFFF団よーの事実を許す……あれもつ教室にほとんどいなくなつたな」

雄一「さてと今の、冗談は置いて俺らは休むか」

レックス「単純なヤツはすぐ動く俺は関係無いがな」

空「俺が言つのも何だがこのクラスやる気が無い奴多いな」

本当だよお前ほど適当なヤツてレビでしか見たことねーよ。

竜也「取りあえずノリだなしかし明久は本当のバカではなかつたのか

梨華「あんな冗談に騙されるのか、このクラスは」

雄二「アメリカいつてる間に幼なじみの《工藤愛子》に教わつたら  
しい」

まあ頑張れよ、明久生き残つてたらハンバーガーでも奢つてやるよ、  
あつ！勿論ポテトもつけとくぜ。

所変わつてAクラス

明久「なんだろすごい寒気がしてきた」

現在こちちはHRが終わり授業のまでの休憩時間中。

愛子「ん、何か外が騒がしいねアッキー」

優子「でもまさかね、バカバカ言わっていた吉井君がAクラスなん  
てね」

翔子「…よろしく吉井」

Aクラスはいいな～女子がこんなに沢山いてFクラスなんて、むさ  
苦しい男ばつかしだもんね多分。

何か入口がウルサいな何だろ見てこよウかな

優子「私が見てくるは吉井君は座つてて」

木下さんが入口をみた後、後ろの手でメールを打ち始めているが……  
：スッゴい早いよ打つの。

愛子「メールがきた何々……了解

あれ何か声が低くなつたような

愛子「取りあえず隠れてアッキー」

何だかわかつてきたような気がするが何も考えないでおこう。  
そのあと霧島さんと愛ちゃんが入口に向かい何か言つているらしい  
がよく聞こえないし、分からぬ。

？「ヤツホー久しぶりだねアキ」

突然横から小さい声で囁かれたので僕は。

明久「うわっ！……ビックリさせないでよ知将さん

唯「もお、唯でいいのに」

僕としては全然よくないよあつーでも愛ちゃんつて呼んだり秀吉は  
秀吉つて言つてるもんね。

明久「よろしく唯」一口

唯「明久君、後は頑張つて！」ファイト

何を頑張るんだろ……勉強かなまあおいていかれ……ギャー

————アアアアア——！

愛子「アツキー何で唯ちゃんトイチャトイチャしてんのかな？見間違  
い？ふふふ」

明久「い、い、いや愛ちゃんお、おちついて！」

翔子「…愛子吉井が可哀想あと唯吉井はオモチャじゃない」

間一髪（正確にいふと五秒前）愛ちゃんに殺される前に霧島さんが  
誤解を説いてくれた。

唯「ゴメンね明久君」

明久「うううん一応生きてるから大丈夫」

愛子「うめん何か気分が悪くて、ツツツツ手がでてしまったよ」

明久「だ、大丈夫全然痛くないから、それより木下さんは？」

僕がそう言つと霧島さんがピックつと反応して僕に抱き付いてきた。

明久「何してんんんん」

完璧に口を塞がれてしまった、勿論手で。

翔子「少し静かにFクラスが来てる」

よく耳をすましてみると

「別の中にいるぐらいいいだろ」

利通「悪いがバカは立ち入り禁止何だ、特に強行突破なんてもつてのほかだ」

「なら代表を呼べ！」

優子「代表はそんなに暇じゃないの分かる？」

「あーいえばこーゆうクソコッチの数は28人そつちは6人これで勝てると思つてゐるのか」

？「お前達には用など無いここから消えろ」

「誰だ！」

その時大きな声でこういった。

雅樹「西園寺雅樹だ」クラスにいる竜也の兄だ

力強い声が静かになつた教室に響いた。

## ある意味チームワーク？（後書き）

評価お願いします！

感想もどしどし送ってください

## 怪物の兄は大怪物

「嘘だろ……クソー田身を退くぞ」

おお帰つてくれるのか、雅樹君にお礼をしなけや

雅樹「さつさと消えろバカ」

「ちくしょうーおぼえとけよー」タツタタ

走つて帰つてくれたか最後のセリフ悪役がいつセリフだつたけどまあいつか。

危機も去つたしお礼しにいきますか。

雅樹「忘れるわお前らなど」

優子「凄いわね雅樹、威嚇したの？」

雅樹「いーや違うな多分俺の弟が今朝アイツらを絞めたんだが」

何か楽しそうに話てるけど、話しかけるのも悪いけど一応お礼は早くいっておかないとな

明久「今回はありがとう雅樹君」

雅樹「気にするな明久前々からお前の事は話しに聞いている後悪いが誰か飲み物買ってきてくれ

愛子「僕が言つてくるよー。」

明久「えつー誰それ？」

僕の顔を見るなり突然笑い出した。

雅樹「ハツハハ決まつてるだろそれは…………あれだよ…………誰だつ  
け？」

明久「…………えつー分からないのちゃんと聞「思い出したー秀吉だつ  
たはず」

雅樹が秀吉つていつた後突然優子はピックつとして

優子「秀吉は何て言つてたの？」

雅樹「秀吉は確か「明久に手を出すヤツは潰してもよいぞい」とか  
何とか」

そう言えば何でそんなに木下さん雅樹は仲がいいんだらまさか！

明久「君たちまさか付き合イツテエーーー何するんだよーーー」

雅樹「ただの幼なじみだしかも優子の気持ちを知らずに」

優子「はあ吉井君はバカなのか頭いいのか

そつかなうこいつゆう考えだね

明久「木下さんいや優子、君は僕の事が好きなんだね」キラリン

決まつてゐよ絶対に今僕かなり輝いてゐるよ。

明久は氣ずいていない回りから見たらスッゴいカッコ悪いとこつこ  
とを。

優子「……へつち、ちちち違つわよーだつて吉井君は昔はバカだ  
つたしぇーとだから…………」

雅樹「優子が壊れたな自分で何言つてんのか分からぬ状態まで進  
んでんの初めて見たわ」

明久「何か知らないけど僕、罵倒されたよね」

愛子「ただいまージュース買つてきたよーあれ?何か優子おかし  
くない?」

翔子「…話せば長くなるから気にしないの」

愛子「了解しました!代表!」

霧島さんがお母さんで愛ちゃんが子供に見える霧島さん何でしつけ  
るの?まーの?

翔子「…愛情があればこんな簡単」

雅樹「それよりジュース飲みたいんだが

取ろうとしたジュースを誰かが止めに入った。

優子「それ私も飲みだいこにはジャンケンで買った順で決めましょ  
う」

愛子「待つてました！そんな事もあらうかと……ジャジャーン！『  
ハバネロサイダー』買ってみた」

愛ちゃん何でそんなの買ってんのは結構死にやすいんだよ。

知つてるよね『ハバネロサイダー』なんて……辛いに決まってんじ  
ゃん！！

翔子「…私も参加するでは一回戦」

皆の顔が本気になり始めた。

ジャンケンポイッ…あこひだつよ…（前書き）

人の意見は取り込むコト重要ですね

それではどうぞ…

ジャンケンポイツ！あい」でしょー

明久「（この勝負、負けられない）」

この場所のみまるでこれから戦闘でも始まりそうな雰囲気である。

女子には悪いけど、《本氣》でいかせてもらつ

皆「（…）最初はグージャンケンポイツ！」

愛子 グー

明久 パー

優子 グー

翔子 チョキ

雅樹 パー

愛子「ここであいこはきついね！」

確かにそうだ、大人数でのジャンケンでは長期戦はキツいさつさと上がらないと、絶対に《ハバネロサイダー》なんて飲みたくないからね。

明久「…じゃあいくよ」

皆「あいこでしょー！」

愛子 パー

明久 グー

優子 グー

翔子 パー

雅樹 パー

愛子 「やった！僕の勝ち！」

雅樹 「悪いが俺は「レをもら」それはもう一回戦で決めるよ……了  
解」

ヤバいこのままいくと……ってなんか霧島さんが少し震えてるよ  
うな。

優子 「いくわよ最初はグージャンケンポイッ！」

明久 パー

優子 チョキ

翔子 グー

翔子 「…くつ絶対負けない」

優子「ハア…絶対負けないんだから」

あれ?何かいつも霧島さんと木下さんじゃないよだつて霧島さん、若干目つきが怖いもん。

翔子「…始めるジャンケンポイツ!」

明久 グー

優子 パー

翔子 グー

優子「か、かかかか買つたあ!!」

…嘘だこんなに負けるなんて次は絶対勝つ!!

明久 翔子「絶対に勝つてやる!」

愛子「何か代表の言葉使い変わったような

ジューースを飲みながら言わるとかなり羨ましい!早く僕も飲みたい!

明久 翔子「ジャンケンポイツ!」

明久 パー

翔子 グー

買つたあ！霧島さんには悪いけど『ハバネロサイダー』は飲まなく  
て……

そして僕が横を見るとガクンとうなだれてる霧島さんがいた。

そして霧島さんは

翔子「うう、飲みたくないよお」ヒクヒク

うへ……霧島わん這をやうになつてゐるな——応僕は男だ!——なつたら!

# 明久一 霧島さん僕が飲むよ！」

翔子……あ、ありがとう吉井は本当に優しい//

明久 いやそんな事ないよさて飲んでみるか

ケビケビ

明久 うつ 辛い喉が焼けるうつ !……………」バタ

「だ、大丈夫 キー……よ」

〔私せい〕

誰かの声が分からぬでも一応聞こえてる。  
でももうだめだ。

僕の記憶はここまでこの後?気がついたら僕はAクラスのソファーベットの上で寝ていた。

愛ちゃんの説明によれば僕は『ハバネロサイダー』を一気に半分以上飲んだらしいそのあとぶつ倒れたらしい。

明久「ん、ん？」」「ううん。

翔子「…」めんなさい吉井…く、君大丈夫？」

愛子「ふう良かつたアツキー心配したんだから」

そう言えど何で一人とも、僕の真横にいるんだ。

あつ！雅樹どうしたんだろ。

雅樹「なあ明久お前は何でそんなにモテるんだ？」

明久「僕がモテる？冗談はよしてよ愛ちゃんが僕みたいだと付き合つてくれてるだけうれしいのに」

雅樹「（自覚が無いハーレム状態の奴を見ると俺でも腹が立つな）」

そんな話をしていると僕達の教室を叩く音がした。

優子「誰かしら？」

扉を開けて見るとそこには赤い髪の毛をした男そう、『ゴリ』間違えた『坂本雄一』がたつっていた。

そして雄一は爆弾発言をした。その言葉は場を氷つかせた。

雄一「俺達FクラスはAクラスに宣戦布告する」

## まわかの宣戦布告

雄一「時間は」さりで決めさせて後日発表する

翔子「…雄一達はそれで勝てるの？」

雄一「それでだこちら側としては5対5の『一騎打ち』がしたい教科はそちらで決め手いい」

今の雄一の作戦あつち側がとても不利に見えるけど、普通に戦つたら勝率が三割だとしたら一騎打ちはだいたい五割になる……わかつたよね？…説明下手？悪かつたね。

優子「いいんじゃない代表」

翔子「何でAクラスにそんなにこだわるの？」

雄一「そんなのどーでもいいだろ俺達はこれからBクラスを潰しにいくので」

雄一はドアの方に歩きながら手を顔の近くでヒラヒラさせると外にいたつてはメンバーと会流していなくなつた。

明久「僕も勉強しとこ」

翔子「…吉井は何を勉強するの？」

明久「僕は英語だよコレだけは学年一位だからね」

霧島さん顎に手を置いて何か考えるポーズをしていた。……可愛……  
大丈夫変な目では見てないから。

翔子「……確かに英語は私四位だった点数は405点だった後二人は誰？」

明久「多分愛ちゃんだと思った」「よんだ?アッキー」ねーねー英語の点数何点だった?」

愛子「保健体育と同じだから……638ぐらいかな」

それぐらいかでも気になるな愛ちゃんと霧島さんの間の順位なのに多分Aクラスにいない人。

翔子「……そういえば吉井は何点だった?」

明久「僕は、・・・・・だったよ」

そんなにビビるのまるでバカだったはずみみたいな顔をして。

翔子「……やっぱり凄いでも私のことは覚えていない」

霧島さんの声聞こえないな、なんて言つたんだろう?

明久「霧島さん何かいつた?」

翔子「……何でもない」

だつたらいいや。さて始めますか絶対負けられないからね!.

・・・Bクラス

レッククス「何だ何だお前らそんなもんがだリーのに参加している俺の気持ちにもなれよ」

空「わざと終わらせて帰るか」

二人「サモンッ！」

試験召還フィールドが大きく広がった。

空「（待てよレッククスの本名がでるんじゃないかな）」

物理

Fクラス レッククス 401点

ラス 松村空 406点

VS

&竹内相

Bクラス 堀内紘 141点

乗 156点

相乗 空「嘘だろ」

何で、コッチの方もレッククスなんだよー

レッククス「いやリアルだ」

その言葉の後、相乗の召還獣は吹っ飛んでいった。

空「やるなー俺もいくか」

空「拳銃は使い方によつてはひみつほつが当てる確率増える」

召還獣は右手持つてこむ金の剣を適がいない右側に投げると矢や二  
銃弾を当て…

紜「まさか…」

空「一いつの意味で遅い（襲い）…」

紜の召還獣の脳天を撃ち抜いた。

空「行け！雄一、秀吉」

雄一「よく頑張つた行くぞ秀吉！」

二人は近くの物陰から姿を現して走つてBクラスの中に入った。

根元「やあ遅かったなFクラス」

雄一「いやいやアンタらの部下補修室に送つてたらな遅くなつちま  
つたよ」

若干根元の顔が曇つてきたが今は無視して…

雄一「サモンツ！」

古典

Fクラス 坂本雄一 276点

VS

Bクラス 根元恭二 219点

雄一「そんなもんかさつさと補修室に行けザコ」「召還獣のパンチ一発で沈められた。

Fクラス勝利

## 英語 VS 英語の一方的なたたかい

優子 side

今日の気分は朝から最高だわ。

なぜかつて今日は私の大好きな『本』が届いたから。

優子「ふう朝から気分絶好調!」

翔子「…どうしたの優子?」

優子「い、いえ別に何でもありますん」

危ない、まさか代表がいたなんて…でも何だろ心が満たされないようだ。

「失礼するぞ」

誰かしらこんな朝早くAクラスに来るなんて。

雄一「Aクラス代表はいるか」

優子「いるわよ何で?」

雄一「今日の午後に『試験召還戦争』を始める、それだけだじゃあな」

それだけ言つと雄一は帰つていった。

優子「だつて代表聞いてた？」

翔子「…聞いてたよ…明日の午後でしょ？」

違うよ代表…今日つて言ってたじやん。でも逆に可愛いかも…

優子「今日の午後ですよ代表」

翔子「…分かった」

ならいいか

今日の午後

先生「コレよりAクラスVSFクラスの試験召還戦争を始めます

明久「僕が行くよ、いよね霧島さん」

翔子「…吉井は強いからどこにいても平氣」

明久「では先生、英語でお願いします」

Fクラスからは…女の子かな手加減した方がいいのかなあ?

梨香「おい、キサマ手加減したらリアルの方でぼこす」

明久「別に関係ないからかいいよ」

明久 梨香「「なら話は簡単だ（ね）…いくぜ（よ）…サモンッ…」

」

英語

Fクラス 獅童梨香 443点

VS

Aクラス 吉井明久 1294点

明久「君か英語の順位が3位なのは」

梨香「…1000点越えつ…勝てる訳ない」

当たり前じやん僕に英語で挑んだ時点で負けは決まっていた。

明久「腕輪発動！」

明久の召還獣が光り出して…それがやむと

明久「最初に言つておく此処はお前の知つている空間じゃない」

梨香「だつたら私だつて腕輪発動！」

梨香「あれ？腕輪発動！…………」

明久「出来るわけ無いじやん此処は僕以外の腕輪は使えない物質が存在しているから」

腕輪なんてめんどくさい物使わせる訳が無いじやん気がつかないのかな？

まあいいかそれではショーを始めよおー

明久「展開！『暗黒物質』」

梨香「その羽は何」

明久の召還獣の背中からは一本の白い羽が生えている。

そして顔には何かの仮面を付けている。

明久「終わりだ…おつと最後に」僕に常識も非常識も通用しねえ！  
「

梨香の召還獣は手も足もです梨香の召還獣が爆発しバラバラになつた。

そして上空からは、召還獣の破片が落ちてきた。

先生「勝者Aクラス」

当然の結果までだな。

## 英語▽S英語の一方的なたたかい（後書き）

感想、評価お願いします！

オリジナルキャラクター募集中！

**翔子の妹は…………最強（前書き）**

こんな駄文を読んでいただきありがと「アレコマサ！」

最近また検索数が増えてきてとてもうれしいです（トトト）

是非とも頑張らせてもらいます！

## 翔子の妹は.....最強

明久 side

先生「それでは一回戦目始めます」

空「俺がいこう、ここで一勝しておいた方が後々楽だ」

あつちからはキャラのような男かコツチは誰がいくんだろ。

？「翔子…私が行くよ…すぐ終わらせるから…いいよね？」

僕達の後ろから一人席に座っている女の子が霧島さんに話しかけて  
いるようだが、誰だらあの子？

翔子「…《翔香》は出なくていい

明久「いいんじゃないの出たいっていつてん」「絶対ダメ！」何でさ、  
出たいならコツチ来れば？

翔香「ありがと…そして久しぶりだね《明兄》…」

この呼び方聞いた……まさか！

明久「愛ちゃん…覚えてる、近所に……でも名前が違ったような？」

翔香「そうだよ…旧姓は《逆旗》…」

愛子「思い出した…小学校の…「…四年生で転校した」そうそう…」

つて何で教えてくれなかつたの」

翔子「…覚えてないと思つたから」

翔香「その話は後で…その前に…戦争」

そうだつた！若干あつちの人機嫌悪くしてゐよ。

空「感動の話は後でにして早く殺りひづせ」

翔香「始めよつ…私も…頑張る！」

翔子「…前髪上げて此処まできたら、本氣で」

翔香さんが神を上げてるけどスッゴい霧島さんに似てるなさすが姉妹。

ん、ん田を閉じてるけど何でだら、集中してゐのかなあ？

翔香「ん、ん……本氣で行く！」

明久「オッドアイなの！翔香さん」

そう翔香さんの田は片方が青色、もう片方が黄色といつオッドアイなのだ。

翔香「さんはいらない…翔香でいい」

明久「わ、分かつた頑張つて翔香」

翔香「頑張るよ明兄//」

あれ？待つて何で顔赤くしてんしかも…

愛子「あれ？アツキーそろそろ身体で分からせるよ？」

だ、誰か助けて！

雅樹「頑張れ！」明久

翔香「明兄…だ、大丈夫？」

無理だよ僕はもう死んでるから。

先生「それでは、古典で」

翔香「空」サモン

古典

Fクラス 松村空 326点

VS

Aクラス 霧島翔香 400点

翔香「アナタは…私に勝てない…何故なら…《武器はアナタに味方をしない》」

空「ハア何いって……「つおあー何だ！」

突然、空の持っていた武器は上空に向かって飛んでいった。

翔香「武器は…私の味方…くたばれ」

そして、空の剣は音速を越えて幻還獣の腹に刺さった。

翔香「わよひなう」

最後は自分の腰に掛かっている。

白い機械の剣を出すとそれが赤く変色し始めた。

そして切り裂いた。

空「負けた～強いな！俺も勉強し直そ」

なんとAクラス2勝め！

翔子の妹は.....最強（後書き）

感想、評価お待ちしております！

## 保健体育の対決（前書き）

朝私は早く書いて投稿するがもつとなのですが…………なんやねん  
！ネットワークに繋がらないって！

といつわけで短い文章かつ駄文ですがどうか皆様のご期待にそえる  
よう頑張らせて頂きます。

それではどうぞ

## 保健体育の対決

明久 side

現段階僕達Fクラスの方がかなり優勢だ後一勝すればいいのだからでも何で雄一は焦んないだろ。

雄一 side

まあここまでは俺の予想通りに進んでいるしかし、『霧島翔香』か アイツは予想外だつたな。

明久 side

翔香「勝つたよ……皆……」

さて次は愛ちゃんの番かなさて僕は休んでおこう。

翔子「…次は愛子お願い」

愛子「了解したよ…ムツツリー＝君久しぶりに始めようか」

康太「…望むとこのだ工藤愛子…」

負けないでね愛ちゃん…ムツツリー＝は本気で来ると思つか。

先生「それでは、始めてください」

康太「…『保健体育の神』に挑む時点で間違つてる」

愛子「引き吊り落としてあげるよ」

愛子 康太「（…）サモンッ！」

保健体育

Fクラス 土屋康太 465点

VS

Aクラス 工藤愛子 ？？？点

雄一「ん、ん？どうゆうことだ」

雄一が眉毛を少しつり上げて言つと愛子は不適な笑いをしながら。

愛子「ふふふ、簡単だよ僕の点数はコレだけだよ」パチン

愛子が指を鳴らすと…

保健体育

Fクラス 土屋康太 465点

VS

Aクラス 工藤愛子 500点

康太「…たつた35点差か」

愛子「勝てるの？腕輪発動行け！《雷鳴》！」

康太「…」の世界は速さが全てだならスピードは俺が貰う！…」

その瞬間フィールド内の時間の流れが変わった。

愛子「どうゆうこと…」

康太「俺の腕輪の能力は《普通の空間の数万倍で動く》物だ」

康太「…終わりだ」

康太の召還獣は全く動かない愛子の召還獣の首を二回ほど切り、空間を戻した。

ブシャヤヤアアアアア…！

召還獣の首から噴水のように血が出て倒れた。

先生「勝者Fクラス」

## 西園寺流 VS レックスター + 代表戦勝つのは……（前書き）

タイトル長い！

さてそれでは今日から始まる、《文月学園相談室》始めましょう！

明久「僕が最初か、あの……最近のゲームは何が流ってるの？」

そして今日の相談員は！

霧島翔香さんです

翔香「だったら……P S 5 の……大海戦 general ……だね」

明久「……それ 18 禁の奴だよね！」

翔香「そり…人を殺すヤツ…だよ」

まさかの戦争ゲーム好きの翔香さんでしたさよりながら～

## 西園寺流 VS レックス + 代表戦勝つのは……

明久 side

愛子「ごめん皆 負けちゃってた！」

翔子「…大丈夫まだこっちの方が有利」

まさかねムツツリーーが僕と似てる空間を操る腕輪とは思わないしね。

だつたらもつと早く倒せたんじゃたんじゃないかな。

まあいつか、さて次は誰が出るんだろう雅樹かな？

雅樹「俺の番がFクラスは誰が出るんだ」

レックス「兄弟対決がみたいけど俺だわ」

雅樹「誰でも変わらんよ」

戦いも終盤になってきたけど、コレほど不機嫌な戦い初めてみたよ  
だつて雅樹：メツチャメチャ怖い笑い方してるもん

雅樹「勿論教科は、数学だ」

先生「それでは始めてください」

レックス 雅樹「サモンツ！」

数学

Fクラス 錦戸赤龍 401点

5

西園詩雅樹 412 章

雅樹  
「Fクラスには結構頭がいいやついるんだな」

赤龍「……俺の名前が出てしまった」

雄  
—  
s i d  
e

はあー、アイツの名前、赤龍っていうのがだからレックスなんだな。

明久 side

スッコい格好いい名前だな、僕もあんな名前が良かつたよ。

赤龍「俺の武器は『鉤爪』だ切り裂いてやるよ」

雅樹「家はな日本では珍しい〇〇の流派の一つなんだよだから俺は素手もしくは拳銃だ」

何で二人は自分の召還獣の武器を見せ合いつこしてんの。

二人「うおおおおお！－！－！－！」

そして一人は真っ正面からぶつかつた。しかしどちらの召還獣も無

傷で次は音速を超えるながら至る所でぶつかっている。

雅樹の召還獣は拳銃を撃ちながら赤龍のわき腹蹴つたりしている。

赤龍は拳銃の弾丸を弾きながら雅樹の防具を切り裂いている。

雅樹「クソ拳銃を使いすぎた」

赤龍「俺も地味に鉤爪を振動させてたからな」

数学

Fクラス 錦戸赤龍 36点

VS

Aクラス 西園寺雅樹 37点

二人「コレで終わりだ！！！！！」

二人の魂の声が交差した時事件は起きた。

数学

Fクラス 錦戸赤龍 0点

VS

Aクラス 西園寺雅樹 0点

明久「…嘘でしょ」

一匹の召還獣は交差する前に能力を使いすぎて…死んだ。

先生「この勝負引き分け」

なんとも締まらない4回戦田だった。

明久「雅樹格好悪すぎだよ」

雅樹「知ってるよ…格好悪すぎたな」

翔子「…このままじゃ面白くないから…教科の選択権をアツチにあげる」

嘘でしょ相手は雄一だよーそんな事したら…でも信用しなくちゃ。

雄一「では、ありがたく貰うは」

翔子「…何でやるの?」

そして雄一はニヤリと笑うと先生に向かって。

雄一「教科は日本史、内容は小学生レベルで100点満点上限無し」

先生「えつーは、はいそれでは視聴覚室まで来てください」

先生最初のほう声がうらがえつてるよ…まあ代表同士の戦いが日本史の小学生レベルなんて思わないよね。

雄一「勝てるは」

翔子「…そんな事は分からない」

日本史

Fクラス 坂本雄二 94点

VS

Aクラス 霧島翔子 98点

雄二「…しまった書き間違えた！」

翔子「…私は年号間違えた」

雄二-side

まさかの誤算だ俺が…間違えるなんて、考えが浅かったか。

先生「勝者Aクラスです」

西園寺流 VS レックス + 代表戦勝つのは……（後書き）

オリジナル小説書きましたぜひ見てくださいー。

## 清涼祭の準備1

結局試験召還戦争の結果Aクラスが勝利を収めた、そしてFクラスの設備が1ランク下がるという結果になつた。

そして現在、吉井明久はAクラスで何かの準備の為の話し合いに参加していた。

明久「今回の清涼祭は何をやるの？」

翔子「…私達はメイド・執事カフエをやる」

明久「…………（よし！）」

雅樹「残念だつたな明久、今回お前は執事をやつて貰う」

そして僕は地に落ちた、何がか気分と生命力かな。

愛子「そんなに落ち込まなくともだつたら僕は『裸エプロン』でもやつてあげようか？」

明久「…………ブファ！－！」

雅樹「だ、大丈夫か！明久ゆ、輸血パックを！」

…クソ僕の人生はここまでか…出血多量で…死ぬなんて。

康太「…助け声が聞こえたから持つてきた、輸血パック（明久専用）

」

雅樹「助かつた土屋」

愛子「」「めんね~」

さすがにこの血の量じゃ……リアルに死ぬかと思った。

しかし皆のメイド服があくこんなチャンスはめつたに無いから写真でも……つて!僕写真取る技術も道具も無いじゃん!

康太「(…明久今回アメリカ帰国祝に写真三枚をただでやる)」

明久「(本当…だつたら……待つてそれを四枚にしてくれる?)」

康太「(…何故だ?)」

明久「(愛ちゃんのメイド服姿も貰つておくから)」

僕がそうゆうとムツツリー二事、土屋康太は(了解した)と言いつとAクラスの窓から飛び降りた。

翔子「… そつ言えばまだ料理を決めてなかつた」

優子「そつねこん中で料理ができる《女子》いる?」

明久「ち、ちょっと待て僕も作れるよ」

雅樹「何で明久が出てくるんだよ」

当たり前じやないか僕の執事の服なんて誰も見たくないだろ。

それだつたら、僕よりスタイルのいい雅樹の方がいいじゃん。

優子「吉井君、料理できるの？」

愛子「断固反対するーだつてアッキーの料理の腕はそこいらのシェフ  
よつはあるよ」

翔香「なら…明兄にやらせれば…いいんじゃない」

愛子「皆多分やる気なくすよ？」

明久「じゃあここに置いてあるやつでなんか作るよ待つてて」

僕は走つてAクラスに設置されている台所?に向かつていた。

台所

明久「さて、ここには何があるんだろう?」

薄力粉に卵、砂糖、シナモン、ベーキングパウダーが入つていた他  
にもあつたが……

明久「よしー、ビスコッティでも作るか

さてまづ、全ての食材を混ぜて（上にかける砂糖以外）そして橢円  
形の長方形に伸ばす。

砂糖を上に表面にかけて、180。のオーブンで20分焼く。

焼けたら厚さ一センチに切って面積が多い方を上にして160。で10分焼くと、焼けたらひっくり返して10分。

明久「完成！意外と時間がかかったな」

さて持つて行くか。

Aクラス

明久「持つてきたよ～」

愛子「あー、ビスコッティじゃん！」おいしんだよね

優子「ビスコッティ？まあ食べて……おいしい！」

そして周りからも《コレはうまい》《おいしいね》など声が聞こえてきた、ふう良かつた～マズいなんて言われたら……ねえやじさん。

翔子「……では採用でそして吉井は必要なとき意外調理室ででも念の為《執事の服》はきておいで」

翔香「私も……調理室……よろしく明兄」

明久「よろしく、翔香」

こうして僕は、調理室行きになつた、いや良かつた！

僕は今、大変悩んでいる、解決策……有ることは有るだが僕の命がねえ～聞きたい？といふか聞いて！！

ほんの10分前

明久 side

明久「ん、ん誰だろ今メール送つてくるなんて？」

送信者は……愛ちゃんかどうしたんだろう、メールの内容は……「一緒に『召還大会』に出ない？」……召還大会？なにそれ。

Aクラスの掲示板をよく見てみると…

明久「なになに…………えつ……優勝者は食券一年分！に新しい腕輪だつて！！！」

明久「よし、……ん、んまたメールだ」

送信者は…木下さん！何だろ？「『召還大会』一緒にやらない？よければメールして」…………何だつて！！！！

明久「ヤバいよ…だつたら雅樹とやればいいんだ！」

雅樹「呼んだか？明久」

ナイスタイミングだよ雅樹、コレが最後の方法だ！

明久「一緒に《召還大会》出ない？」

雅樹「いいぜちょうど、コレ見ててな」

明久「なに、食券が欲しいの？」

雅樹「まあそれもあるが、腕輪だぞ！気になるもんだろ」

そっちね…僕は現在危機的状況でもアルからね食券は頂いていい。

明久「よし行くか！」

雅樹「行くぞ！」

こうして僕の命は助かつたように見えたがそれは勘違いだった何故なら《召還大会》の相手が、霧島姉妹に愛ちゃんと木下さんのペアーと戦うなんて。

清涼祭 当日

明久「スッ、ゴい人だな…こんなにくるもんなんだ」

現在僕は、Aクラスにあるでっかい調理室でビスコッティ以外のお菓子を女子のお菓子が作られるメンバーで作っている。

「すいません、ビスコッティと紅茶のセットを3つ」

「レモンティを4つ」

雅樹「いい感じじゃねえか」

優子「そうね、こんな風になるもんなのね」

雅樹「おっと…そろそろ時間だ明久借りて行くぞ」

明久「そろそろ時間だね…行くか」

愛子「僕達も行くよ優子」

そして僕達は《召還大会》をやるドームに移動した。

先生「さて、今年も始まりました！今回の大会に参加してくれたチームは45組です！」

去年を知らないから何も言えないけど、結構皆参加しているね。

雅樹「そう言えば、坂本達もでるらしいぞ」

明久「アソコとはいえ当たりたくないね」

先生「それでは、一回戦を始めます！教科は『物理』です！」

先生「そして一回戦はこちら…」

教科 物理

2年Aクラス 西園寺雅樹&吉井明久

VS

2年Bクラス モブ1&モブ2

高橋「それでは、始めてください」

四人「サモンツ！」

物理

2年Aクラス 西園寺雅樹 359点  
& 吉井明久 279点

VS

2年Bクラス モブ1 201点  
& モブ2 197点

雅樹「楽だな」ニヤリ

雅樹の召還獣はいつの間にか、敵の召還獣の後ろに回っていた。

モブ1「なんだって！」

明久「遅いよ」

モブ2「しまった！」

そして僕は首を切り、雅樹は首の骨を折った。

明久「楽勝だね」

雅樹「さて次は誰かな」

明久達はBクラスを瞬殺したため、観客がザワザワしているところがあつた。

清涼祭準備・当口一（後書き）

新しいバカとテストの小説書いたので見てくれると光栄です。

オリキャラ募集中どしどし送つてください  
ためらいなど入りません！

## Fクラスに敵として誘拐！？（前書き）

文月学園相談室

明久「何か知らないけど僕が相談員になりました」

明久「ここに呼ぶのは面倒なので、お便りでやります」

明久「何々皆も送りたい？待ってました！皆送つて来てね」

明久「どしどし送つて！僕が皆の質問に答えるから」

Fクラスに敵そして誘拐！？

明久「ふうよかつた一回戦勝てて」

雅樹「あれぐらいは勝てるだろ」

今僕は、Fクラスに向かつて何故か？何かFクラスが面白いことをやつてるらしいから、誰情報か確か…木下さんだつたけな。

Fクラス

雅樹「入るぜ」

明久「あれ？ お密さんいないの？」

なんとFクラスには、お密さんが誰もいないのだ。

秀吉「お密は全員喜んでくれたのじゃがな」

雄一「2人を除いてな」

明久「雄一？」

雅樹「なる程、妨害を受けたか雄一で検討はつくが……」

雄一「で、ムツツリーーー場所は分かつたか？」

突然天井の板が外されそこから忍者の格好をした、ムツツリーーーが出てきた。

康太「…Aクラスで…Fクラスの悪い噂を大声でいつていたが注意した、工藤、霧島姉妹そして、Fクラスの獅童が連れ去られた」

明久「何だつて！絶対ぶつ飛ばしてやる！」

雄一「何やつてんだよ、梨華」

雄一は頭を抱えてうなだれていた。

僕がFクラスの教室を出ようとするとドアが開き木下さんが慌てた感じで入つて来た。

優子「はあ…吉井…君…た…いへん…」

多分、僕達に皆がさらわれたのを教えるために走つて探してくれたのだが、木下さんの顔がかなり赤くなつていた。

明久「大丈夫、すぐ連れ戻すから」

優子「獅童さんもさらわれたの！」

獅童さんつて確か雄一の幼なじみだったような。

康太「…場所は、体育倉庫、今竜也と赤龍が向かつてゐる」

そして、僕と雅樹、雄一は体育倉庫に向かつて走つた。

-----

体育倉庫では、5人の別の学校の学生が霧島姉妹と工藤、梨華を縛りで縛っていた。

梨華「この縄ほどけたらただですむと思つなよ……」

「黙つてけ！」

梨華はその男に一発殴りを入れ氣絶させた。

「コイツを函に《双子の神殿》と《赤きドリゴン》は来るのか？」

「わからねえよ、」

そんなクソみたいな話をしていると、ズドーン……という音が体育倉庫にひびいた。

赤龍「悪いね、営業妨害しないでくれる面倒なことかけないでよ

竜也「兄貴はまだかなら、俺達だけで潰すか」

「きたぜ《赤きドラゴン》と《双子の神殿》の一人が！」

明久「違つよ、《悪鬼羅刹》もいるよ」

雄一「悪いな、誰だか知らないが此処から消えてもらつは

「へつー早速始めよつぜ」

雅樹「真っ正面からかかってこいよ！」

そして僕達による戦闘が始まった、正確にいふと僕達による《圧倒的な虐殺》かな。

3分後

雅樹「これぐらいでいいかな」

明久「弱いな」

雄二「明久お前こんなにケンカ強かつたか？」

明久「水泳やつてたら筋肉がついてね後アメリカだから絡まれると思つて鍛えたの」

雅樹「まあ終わりだ」

僕達の圧倒的な虐殺はすぐに終わった。

まず最初に雄二が敵をラリーアットで一人沈め、雅樹と竜也が何か協力技で二人沈めて、僕は回し蹴りで一人沈めて赤龍は……一人間にやつていいのか分からない技をやって沈めた感じかな。

赤龍「……なんか手応えが無いな」

雄二「帰るぞ、皆」

僕達は皆の縄をほどいて、教室に帰つていった。

Fクラスに敵そして誘拐！？（後書き）

オリキヤラ募集中です。

明日は人物紹介2をやります！見てね！

明久の相談室もよろしく！

## 人物紹介2（前書き）

明久の相談室

明久「お便りは…………着てない！」

雅樹「明久応援メッセージはきてるぞ」

作者「本当にやったよ本当に思いつきで書いといて良かった」

明久「作者は下がつてて」

雅樹「明久相談室、誰も送つてくれないな」

明久「何で？送つて相談質問しつかり答えるよ！」

雅樹「まあ俺としても送つてあげてくれよ」

明久「それでは、送つてね！待つてるよ！」

## 人物紹介2

西園寺雅樹 サイエンジマサキ

所属クラス Aクラス

学年 1年3

特徴

今作品のサブメインキャラクター

灰色の髪に程良く筋肉がついていて長身

ケンカがとても強く弟の竜也でさえビビりせぬほど。  
明久とは最近知り合った中だが行動するときはほとんどこの二人で  
進んでいる。

勘が良く自分で考えた予想が当たることが多い。

木下家とは幼なじみ

召還獣

装備

武器 素手または拳銃

防具 スーリングスツツ

腕輪

『パーカクトブリザード』

氷を操ることができる。

霧島翔香 キリシマショウカ

所属クラス Aクラス

Size B83 W56 H79

Height 158

特徴

霧島翔子とほとんど同じ外見をしているが目を前髪で隠している。

目が左右違う『オッドアイ』である。右目が青 左目が黄色

会話文に「…」が入る。

召還獣

装備

武器 高周波ブレード「気になつたら検索を」コンバットナイフ

防具 白いパワードスーツ

腕輪

相手の武器を自由自在に操れる（発動中は一秒一点）減らされる。

闇片秋波 ヤミカタシユウハ

所属クラス Aクラス

3 size B 84 W 54 H 79

h.1 56

特徴

なかなか口と話すことができず休み時間とかは本を読んでいる。

明久がきつかけで翔子とかと話すようになるも、しゃべるのが苦手で身振り手振りで物事を伝える。

すぐに顔が真っ赤になることも、嘘をついてもすぐばれてしまう。

召還獣

装備

武器 仕込み刀（ステッキの中に隠されている）

防具 黒いジャケットにジーンズそして男物の帽子をかぶっている

腕輪

?

知将唯 チショウユイ

所属クラス Aクラス

3 size B 84

W 57 H 78

height 160

特徴

いつもテンションが高く明久をからかっている。  
戦う場面が少ないため、成績は良く分からず、Aクラスにいるの  
だから頭は多分いい。

召還獣

装備

全て不明

応募ゾーン！！

黒柳大和 クロヤナギヤマト

所属クラス Aクラス

特徴

容姿は angel beats! の音無結弦の髪を黒くした感じ。

気さくな性格で誰からも好かれる主に一年生。

喋るときは、丁寧語

少し変わり者ので趣味として、色々な情報を集めている。

得意科目が物理で物理の点数が明久のよつよづばぬけている。

アメリカメンバー全員とともに転校していく。

恋愛事には少し鈍感（明久ほどではない）

総合得点は4095点

召還獣

装備

武器 日本刀の二刀流

防具 黒い甲冑

腕輪

ギヤンブルダイス

一回につき50点消費、六面体のサイロロに「大吉」「小吉」「大凶」の3つが2つある。

ただし自分の召還獣のみの腕輪  
効果

大吉  $(\text{元々の点数} - 50) + 50 \times \text{フィールド内にいる召還獣}$

小吉 点数が80点回復する  $(\text{元々の点数} - 50) + 80$  点

大吉 フィールド内の見方の召還獣が全滅する「自分も含めて」

## 人物紹介2（後書き）

何か待つてます！

明久「送つてね」

雅樹「感想、ダメ出し何でも送つてくれ」

明久「忘れないでよ！僕はどんな質問にも答えるからーー！」

準決勝！そして孤立した少女！？（前書き）

明久「さて、今日お便りがきたんだ」

雅樹「何々……（秋波さんの3サイズを名前だけで判断しましたスイマセン）誰だ？秋波って」

明久「そうか、まだあつてないのか雅樹は」

秋波一な  
何て  
ね  
私かこは?

明久「レバ」してお「思」?

秋波「……………」  
たが……………」  
私は地味な女っていうのは知っています

明久一 まあ謝つてるし大丈夫だよ」

秋波： そんなは地味ですか！ たゞただの私の感触で見てください！」

# 雅樹 一 僕暇だから帰るわ

明久「逃走！」

吉井明久の答え

明久が逃走しましたため答えられません

闇片秋波の答え

私は3サイズは気にしてませんよ、でも地味って言わないでくださいね

準準決勝！そして孤立した少女！？

先生「さて、次は準決勝一回戦目の対決です」

何とか間に合つた確か僕達は一回戦目だよね。

先生「それでは、対決者あがつてください」

そしてあがつてきたのは

明久一 愛ちゃん！？

「アッギー」で勝って僕達と勝負しよう。

へ? もう少し」と、しかも愛ちゃんの相方って誰なの?

明久「い、いやこれには深いじ、事情があつて」

雅樹「焦るな明久どちらにせよ勝つのはオレラダ」

いやそうじやなくて!! 木下さんと愛りやんが出た理由つて、僕を倒すためだよね! 絶対そうでしょ。

愛子「さつと倒しますか」ポキポキ

優子「ふふふ、楽しみだわ」ポキポキ

明久「僕達「棄権しようか？ダメだ」……そーだ！わざと「負けたら許さない」……」

明久「僕いつたん教室帰るよ」

「ここにいたら何か押しつぶされそうだ。とにかく教室に帰る。」

## Aクラス教室

今は、メイド・執事喫茶は開いておらず中には人がいた。

その子は髪がショートカットで僕と同じショートを着ている

明日 - あの、君何してるの?」

しや独りか落ち着くので

… その女の子は何故か身振り手振りで物事を伝えようとしているが…  
… そんな事しなくても伝わるが。

? 「あのう、アナタの名前はですか?」

明久「僕？僕は吉井明久だよ君は」

? 「私は……や、や、闇片しゅ、秋波です」

何でそんなにビビってるんだろ？僕そんなに怖い顔してたかな？

秋波「い、いえ、してませんよ」

明久「よかつた……………何で僕の考えてたこと分かったの！？」

秋波「そ、それは、た、たまに人の心が読めるんです」

す、すゞいーまるでアニメみたいだね。

秋波「で、私にようがあつてきましたのですか？」

日文  
用字  
規範  
註釋  
總目

「霞片さんには悪いけど……霞片さん」このクラスに馴染めてなかつたのかな？

明久「闇片さん、僕と『友達』にならない」

秋波「ほ、本当にですかー!」、いからからもお、お願ひします!」

何をお、お願いされたんだろ……まあいつか  
おつとーそろそろ『召還大会』の僕達時間だ行かなきや！

明久「それじゃあね闇片さん、あつ！僕の試合見に来てよ。」

秋波「人が……「大丈夫だつて！」……分かつた、見学させて頂きます」

コレは何としても勝たなくちゃね。自分から見てって言いながら負けるのは恥ずかしいからね。

そして僕は闇井さんを連れてドームに向かった。

**準準決勝！そして孤立した少女！？（後書き）**

感想お待ちしております。

**準準決勝僕達VS最強の姉妹！？（前書き）**

人物紹介2の所に1人増えました！見てください！

唯「私だよわ・た・し忘れたの？酷いな～」

## 準準決勝僕達VS最強の姉妹！？

僕は先ほど、闇片さんと別れて今雅樹と一緒にいる。

雅樹「さて相手は誰だ」

明久「誰がきても本氣でいいかないと」

さて相手は誰かな。

先生「次は、二回戦目です両者出てきてください」

この大会戦つまで誰が相手か、分からぬ嫌なルールだよね。

?「...相手は吉井達か」

?「まさか...明兄と戦うなんて...」

この声、しゃべり方まさか！霧島さん！

翔子「...味方どじで戦うなんて」

雅樹「だな、コレどじちらかが倒れるのか」

雅樹 side

状況は最悪だな、俺はここで絶対に勝ちたい！だが此処で俺達が勝つてもコレからの勝率が低いなら.....

雅樹「明久ここは棄権するぞ」

明久「ヤダ日本氣でいかないと」

こんな所でやる氣出すなよ…そこが明久らしいけどさ。

先生「それでは、モニターを見てください教科はこちらです…」

教科は…………数学かいけるな！

先生「それでは、始めてください」

4人「（…）サモン（ツー）」

数学

2年A組 吉井明久 364点

&amp; 西園寺雅樹 416点

VS

2年A組 霧島翔子 405点

&amp; 霧島翔香 375点

明久「いい感じじゃない」

雅樹「やつせと終わらせるぞ」

早速、翔子と雅樹は腕輪を発動させた。

雅樹「（絶対零度）（パーフェクトブリザード）凍りつけーーー！」

翔子「《死と死の剣》（アッシュオブデッドソード）すぐに終わらせる」

二人の召還獣は、雅樹の作り出した氷を、翔子が剣で消し去り。翔子の剣を雅樹の氷で動きを止められたりと、五分五分の戦いをしていた。

明久 side

明久「さて僕達も行くか」

翔香「すぐ終わるよ……明兄」

僕達も真っ正面からぶつかった、剣と剣の斬撃がどびあっていた。

明久「くつー攻撃できない」

翔香「当たり前…負けない」

雅樹「ハアハア…何だよ意外と得点下がつてんじやん

翔子「…やばいかも」

2年A組 吉井明久 265点  
&amp; 西園寺雅樹 133点

VS

2年A組 霧島翔子 118点

&amp; 霧島翔香 268点

雅樹「クソこうなつたら！」

翔子「…一撃で決める！」

そして二人の召還獣が赤く光り出した。

雅樹「デスブリザードオオオオ…！」

翔子「…煉獄切斷斬！」

二匹の召還獣は、片方が赤もう片方が青そしてぶつかった…！

ズドオオオオオオオン…！！

## 準準決勝！勝者と敗者

雅樹と翔子の衝突により、辺り一面に爆風が広がつていった。

その爆風により、現在召還フィールドが煙に包まれている。

明久 side

雅樹「前が見えねえ、やりすぎたか」

本当だよー」れじゃ何が起きてるのか分からないよ。

「うなつたら、無差別攻撃だ！」

明久「ウオオオオオ！」

先生「何でしょう？吉井君が突然大声を上げました」

翔香「何してる…の」

明久「勝たなくちゃいけないんだ、雅樹もう一回を<sup>ア</sup>」

雅樹「……勝てよ明久「分かつてる」なら逝くぜ！『スブリザード  
！』

雅樹が叫んだ瞬間、突然全ての煙が消え失せ氷付けの一匹の召還獣と足が凍つてゐる召還獣が出てきた。

明久「悪いけど、僕達の勝ちだ！！」

そして明久は足が凍つてゐる召還獣の首を切断した。

## 数学

2年A組 吉井明久 154点

& 西園寺雅樹 0点

VS

2年A組 霧島翔子 0点

& 霧島翔香 0点

先生「勝者2年A組吉井、西園寺ペアーです」

良かった～勝てて、闇片さん見ててくれたかな？

そして僕達は、皆のいる場所に向かった。

溜まり場

愛子「おめでとつ、アッキー！ 準決勝楽しみにしてるよ」

僕は全然楽しくないよ、むしろ怖いよ恐怖でしかないよ準決勝。

雅樹「で生き残ってるのが……………げつ！ 坂本のグループも残つてんのかよ」

明久「マジー・アソコとは当たりたくないなあ」

雅樹「確かに、何考えてるのかわからねえしな」

絶対何か企んでるよ、雄一が企まないわけが無いしね。

雅樹「どうにしても次は勝つぞ」

確かにそうだね…今残つてるのが2年生だけっていうのが、面白いけど。

所変わつて、ドームでは

先生「さて今回の『召還大会』も終盤戦になつてきました、それは文用学園長に今回の戦いの賞品を説明させて貰います」

カヲル「それでは、説明するよ今回の賞品は『学食一年分』+『腕輪』と書いてあつたがそれじゃつまらないだろ?」

カヲル「だからね、今回の賞品はコレだ!」

学園長がモニターを指すとそこには、赤黒い腕輪が映し出された。

カヲル「コレは『鳳凰』この腕輪は200点で腕輪を使うことがで  
きるようにする腕輪だ、まあ使つたら5分後には元の半分の点数に  
なるがね」

今、モニターには色々な場面から撮つた腕輪が映し出されている。

カヲル「準優勝は『白銀の腕輪』を上げよ」

そして、モニターは赤黒い腕輪から白く輝く腕輪に変わった。

カヲル「まあ頑張りなクソガキ共」

そして、学園長は舞台から降りた、しかしその顔は少し考え方をして  
いる顔だった。

明久 side

明久「だつて雅樹」

雅樹「まあ、俺の目的は腕輪だから関係ない」

どちらにしろ、勝たないとね！準決勝だから相手も変わらぬのかな？

準決勝！勝者と敗者（後書き）

力ヲル難かしい！！

## 準決勝！！（前書き）

雅樹と明久の相談室！

明久「質問」ないね雅樹

雅樹「確かに、何か違うことやるか？」

明久「過去は振り返るな！ってだれか言ってたし」

雅樹「何やるか決めるか」

明久「…………皆の好きなもの、嫌いなものを聞いて見るとか

雅樹「……俺には分からぬ、質問して見るか」

それでは、何かやつてほしいことがあつたらいつてください。

明久「つなぎは任せて！意見くるまでつなげるから」

## 準決勝！！

明久 side

先生「それでは、準決勝を始めますルールはくじ引きでチームを決め4対4で戦つて貰います。それでは8人で出てきてください」

先生「それではくじを引いてください」

雄一「赤か」

優子「青だつたわよ愛子」

雅樹「明久俺達は、赤だ」

梨華「まあ、青だろうな」

雄一達と同じチームか何かヤだなあ。

雄一「よお明久こには協力しようぜ」

明久「流石に、チーム戦だしね」

そして僕達のチーム戦が始まつた。

先生「それでは始めてください」

そういうえば何で獅童さんは一人なんだろう？

? 「遅れました」

確かこの声は……

唯「どーも 何も言われて無いんで Fクラスと Aクラスの組を作りました」

明久「なんだつて！！」

そんなの有りなの！……待てよ確かにそんなルールは無かつたけど、一般常識として。

雅樹「面白そうじやないか

先生「それでは、始めてください」

8人「サモンツ！」

教科 世界史

赤チーム吉井明久 403点 坂本雄一 348点

&amp;

西園寺雅樹 315点 錦戸赤龍 195点

VS

青チーム木下優子

346点 獅童梨華 98点

&amp;

獅童梨華 98点

工藤愛子 309点 知将 唯 404点

雄一「何だよその点数は『お嬢様』」

梨華「苦手なの!世界史何て頭がクラクラするの見ただけでとにかく嫌いなんだろ?、それしか分からなによ、だって日本語おかしいもん。」

雄一「とにかく始めるか、明久腕輪封じ」

明久「了解!」

そして僕が腕輪を発動させようとする。

優子「やらせない」

木下さんが真っ正面から突進してきた!-

ヤバいよ……考えるより行動だ!!

そして僕は腕輪を発動した。

雅樹「なんとか間に合つたか」

赤龍「ナイスだ吉井」

何とかギリギリ、腕輪を発動し自分の周りに『暗黒物質』をばらまき、少しのダメージを受けただけで助かった。

明久「ここまでやつたよ、では僕達のパフォーマンスを始めましょう！」

そして、僕は能力をフル全開にして白く輝く翼を広げ、知将さんに突進した。

唯「嘘でしょ……400点いってたのに手も足もでないなんて」

なんとその一撃で、唯の召還獣の体力謙点数が0になつたのだ。

雄一「楽しませてくれよ木下姉」

赤龍「女子は斬らないが召還獣は別だ」

二人も自分自身の敵の元へ走つていった。

雅樹「俺のパワー見せてやる！！」

そして僕達は、一方的な戦いをした我ながら思うよ《流石に手加減すれば良かつたのかな》？。

先生「勝者赤チーム！」

なんとなんと僕達は決勝まで駒を進めた！

## 変更点 絶対にお読みください

「」のだび、「」の小説についてです。

明久と水泳と幼なじみをかなり内容を変更いたしました。

原因は、出し忘れのキャラクター、最初から付き合つていては面白くないと思いまして変更しました。

- ・ 変更点・
- ・ 明久と愛子は付き合つていない
- ・ 内容も少し変更されている
- ・ キャラクターの出でいろも変わつていて

大変面倒ではありますが、最初からお読みになつてもらえるとより楽しく見れると思います。

何か分からぬ所やおかしい点がありましたら。

感想にお書きください、学校時間以外なら早急に直します。

大変申し訳ありませんでした。

決勝は明日！？そして明久の姉と妹（前書き）

明久と雅樹のたわいもない話

明久「そういえば、雅樹つてどつちの腕輪欲しいの？」

雅樹「どつちかつていわれてもな……貰えるなら両方欲しい」

明久「欲張りすぎだよ」

雅樹「しかし、流石高校！学校にカフェがあるなんて」

明久「そお？アメリカにはあつたよ」

雅樹「国が違うからな、あつ！質問あつたぞ」

明久「何々…………ブファー！！」

雅樹「どうした！明久、何々…………」

明久よ、還つてこい。

終

## 決勝は明日…? そして明久の姉と妹

先生「さて《召還大会》も残すところ後一試合になりました」

先生「しかし、残念ながら今日はここまでです、明日の午後1時からドームで始まります」

明久「ここまできて、先延ばしするの…」

雅樹「確かにそうだな、さて教室に帰るぞ」

本当だよ…あのクソババは何考えてるのか。

Aクラス

そして僕達は教室に帰つていつた途中知つてる顔に会つたがそれは見なかつたことに…。

?「見なかつた事にするなあ…！」

明久「そもそも、何でここにいるの?」

?「それは、それは大変大切なことを伝えるためだよ」

入口で僕と僕の妹と話していると、中から愛ちゃんがやつてきた。

愛子「あつ！明菜ちゃん久しぶり！でも」「今まで来るの大変じゃなかつた？」

明菜「大丈夫だよ！玲お姉ちゃんと来たから」

…えっ！な、な、なんだつてえええ！！！あの実の弟である、僕に手を出そうとした、頭がかなりおかしい姉さんが！――

玲「明くん何か変な」と考えませんでした?」

明菜「そういえば、格好良かつたよ先の大会！ 何だつてけ」「僕達のパフォーマンスを始めましょう」だつたけ

明久「やめてくれ！明菜、お兄ちゃんのライフはもうゼロだよ！」

# 雅樹一厨一病全開のセリフだな

もつ僕、ダウンするよ……

玲一とにかく、優勝したら」褒美をあげますよ」

明久「どうか何で皆変な目で見るの！」

翔子「…『メント』は控える」

なんて、最悪なんだろ……

**決勝は明日！？そして明久の姉と妹（後書き）**

明久は何を想像したのでしょうか。

清涼祭2日目 吉井家の朝（前書き）

明久といつくつかをしりたいという人がありましたが……まだやりません！

明久は鈍感なので……

## 清涼祭2日目 吉井家の朝

あとあと僕は、皆の目線が痛かつたが普通に仕事をして帰った。

明久 side

吉井家

朝の日差しがカーテンからこぼれて僕の顔に当たっている、しかしまだ眠い…時計を見てみると8時20分を指していたまだ寝れるな、今日学校が休みの土曜日だし…って！

明久「清涼祭だから土日も学校あるんだつた…！」

ヤバいよ…ヤバいよ…僕は出 哲郎では無いよ。

明久「そんな事考える暇も無いよ！」

明菜「玲姉ちゃんは仕事にいつたよご飯は私が用意したから

明久「ありがと……って何で明菜が居るの…！」

今日朝からビックリしまくりだよ！

明菜「当分コツチに泊まるつていたつたじょん

明久「聞いてないよ！あつ！だからダンボールが沢山あるの」

明菜「あと、今日学校の時間9時からだよ」

我ながら思つよ、なんてできた子なんだお兄ちゃんつれしじよ、しかし何で姉さんはあんなにc r a z y何だろ。

明菜「ほら食べて、作ったから」

明久「分かった、いただきます」

ん、美味しい流石だよでも……

明久「……朝からカレーはキツいかな

明菜「気にしない気にしない」

僕としては氣になるよ、まあ美味しいからいいけど。

明久「それで、今日も来るの?」

明菜「行くよ!後夜ご飯何がいい?」

明久「ん…………僕が作ろうか?パエリアとかなんだろ、ピラフとか?」

明菜「じゃあ、パエリア作つて!私材料買うから」

再度思つよ!んなに出来た妹をもつと誇りじよ、出来た妹は最高だな。

そう再認識しているとインターホンがなつた。

## ピンポン

明菜「はいはい、今出ますよお~」

「こんな朝早くから誰だろ?」

愛子「おはつよお 明菜ちゃん! そろそろ学校の時間だから

明久「今から準備するから待ってて!」

準備完了!~

明久「よし準備完了! 行きますか」

明菜「いってらっしゃい!~

明久「行つてきまーす」

そして僕は家を出て学校に向かった。

清涼祭2日目 吉井家の朝（後書き）

感想マツテまーす！

## 吉井家！ 人物紹介と腕輪

吉井明菜 ヨシイアキナ

小学6年生

3 size B69 W48 H65

height 151

### 特徴

容姿はけいおん！の平沢憂

料理、掃除などほぼ全てが出来た完璧な女の子、明久いわく「なんて出来た子なんだ」という程完璧だが、極度のブラコンである。

若干天然が混ざつており朝からカレーを出すなどの行動をする。

趣味 明久の世話

吉井玲 ヨシイアキラ

全て原作だが、アメリカには留学していない。

知能は原作通りで爆弾発言もするし、実の弟明久に手を出そうとする。

腕輪

白銀の腕輪

召還獣ではなく生徒がつける腕輪

同時召還型

原作といっしょ

点数での暴走無いが、普段の2倍の集中力を使うそのため、操作が非常に難しい。

武器進化型

点数関係なく武器の攻撃力を2倍になるがダメージは2倍受ける。

清涼祭2日目 午後まで暇あ（前書き）

明久に5の質問！

明久「こ、此処はどーーー！」

此処は君の夢の中だコレから質問するから真実を答えてくれ

明久「分かったよ」

理解がはやくて助かるよ

1アナタの好きな食べ物は？

明久「僕の勿論パエリアだけど」

2アナタの好きな人は？

明久「今は…家族かな」

3好きなゲームは？

明久「モダン3だね」

4今一番したいことは？

明久「ゲームだよ！」

5質問に答えてくれてありがとうございます

明久「またね」

清涼祭2日目 午後まで暇あ〜

明久 S i d e

僕は控え室で回転するイスに座つてこるそして今……

明久「ひ、ひ、暇だあああああ！」

雅樹「仕事しろおおおおおお！」

怒鳴るなよ！鼓膜破れるかと思つただろ！

愛子「そうだよ、雅樹のいうとおり僕達ばかり動いてアッキーも執事の服着て注文取つて」

現在、お菓子の材料をモブ達が買い出し中…… 分かるでしょ 材料がないの。

なので厨房メンバーは誰も動けない訳だから、休憩の時間だよね。

翔子……吉井手伝わなければ……メイド服着せる

翔香「それども…看護婦？」

何だろ霧島姉妹が怖い事いつてるや何だろ身体が震えてきた。

明久「僕でよければ手伝います……いえ手伝わさせください」

翔子「…だつたら着替えてきて」

そして僕は男子様更衣室に向かつたがある異変に築いた。

明久「霧島さん! 何で袖が無いの!」

翔子「…何となく」

翔香「嫌なら……やつぱり着て」

何を考えてたんだろ……でも一つ分かるよ……もくでもない事だらうね。

試着終了!

明久「意外抵抗ないね逆に動きやすいよ」

愛子「似合つてゐじやんアツキー」

翔子「…爽やか」

翔香「何か…スポーツマンみたい」

皆こりいろいろな」と言つてゐるが大きくまとめる。

愛子 翔子 翔香「(か、格好いい)…さすが未来の旦那)」

雅樹「明久……モテる方法を教えてくれ！頼む！産まれてこの方『非リア充』なんてヤダ！俺にも青春をさせてくれ！」

明久「何言つてんの、僕がモテる訳無いじゃんだったら僕も一回も『付き合つた』ことないよ」

雅樹 side

何だつてエ……何だハーレムは彼女をつくるまでも無いって事か。

明久「何で拳に力が入ってるの！落ち着いて」

雅樹「ふう……よし！」

俺何に力入れてんだ……バカみたいだ。

明久「で、注文取りに行くよ」

雅樹「なんだかんだ言ってお前がやる気だしたならいいか」

疲労がハンパないな今田は家帰つた速攻寝よ。

決勝忘れてた！？（前書き）

明久と雅樹の質問「一ナーナー！」

明久「久しぶりだね皆！質問きたから始めるよ！」

雅樹「始めてくれ」

明久「貴方が人として一番大切なと思うことは何ですか？だって」

雅樹「それはアレだろ、ノリカテンションだろ」

明久「僕はね……優しさかな」

雅樹「そう、考えるとたくさんあるな笑顔とかさ」

明久「そうだね結果！優しさかな」

雅樹「俺の意見はどうにいった！」

終

本編へ

決勝忘れてた！？

雅樹 side

明久「ご注文何いたしますかお嬢様」

「え、えーと／＼執事特製レモンティーで」

明久「かしこまりましたお嬢様少々お待ちを」ウインク

「すいません」

明久「はーいビッグしましたかお嬢様」

「コレを」

明久「了解しましたお嬢様、ビスコッティを一つで」ヤサシイホホエ///

「は、はい／＼」

フラグつてあーやつて作るんだな、まあ見てもやり方なんか分からんしやる気もないけどテンションも上がらないし。

雅樹「ご注文何いたしますかお嬢様」

「じゃあコレで」

雅樹「かしこまりましたお嬢様少々お待ちを」

そう言つてやつてんのに、何で何もおこらねんだ！明久だからか？  
顔か？髪か？

明久「ねーね結構コレ疲れるね」

雅樹「そうか？俺は何ともないが」

明久「体力あるんだね雅樹は」

その点、体力あるとらくだがな

翔子「…一人とも行かなくていいの？」

雅樹「何だ？」

明久「僕達何かあつた？」

翔子「…決勝」

…自分でも分かるぜ、今顔真っ青だなあつ明久も青くなつてるつて  
青くなりすぎだろ！！

明久「…時間は…まだある！行くよ雅樹」

雅樹「お、おう」

そして俺たちは走つてドームに向かつた。

雄一-side

ドーム内

雄一「（何やつてんだ明久達は）」

赤龍「こんな勝ち方納得いかねえな」

先生「何とこ」まできた、吉井・西園寺ペアはやってこなごう  
ゆうじでしょ」

本當だ、何やつてんだアイツはー

? 「…遅れ…ま…した」ハアハア

? 「いや〜疲れたわ

そこには、本当に疲れてる男と息一つあげず笑ってる男が立つてい  
た。

雄一「やつときたか明久雅樹」

そして二人は目を合わせると指を雄一達に向けてこう言い張った。

明久 雅樹「最初にいっておく、俺達はかなり強いーー」

決勝忘れてた！？（後書き）

此処で一回に分けました！ 続きは6時に投稿します

朝のね

決勝開始！！ 本気のぶつかり合い！（前書き）

明久と雅樹のコレからの予定！

明久「そろそろオリジナル小説始めないのかな」

雅樹「期待はしないほうがいい」

明久「分からぬよ？ やるかも……やらないかも」

雅樹「まあやるとしたら、何だろどつか遊びに行きたいな」

明久「同意見だよ！」

何と二人の意見が一致さあどーなる！

決勝開始！！ 本氣のぶつかり合!!

明久 side

雄二「俺達も負けられねえよ！」

赤龍「此処まで負けたらダサいからな…めんどうだが本氣でいく」  
ギロリ

あの子曰つき一気に変わったよ何かのモードに入ったみたいに。

先生「それでは、科目は総合科目で始めください」

4人「サモンツ！」

総合科目

2年A組 吉井明久 4643点

&amp; 西園寺雅樹 4115点

VS

2年F組 坂本雄二 3986点

&amp; 錦戸赤龍 1859点

雅樹「さすが『神童』と昔いわれただけあるなまさか1日で此処まであげるなんて」

雄二「いやいや、4000点言つて無い時点でまだまだ、しかし勝ちは譲らないがな」

明久「知つてる？4400点以上は腕輪がつかえるんだよ」

雄二「俺は明久を引きつけるお前は雅樹を」

赤龍「最悪だ……学年次席レベルがいるなんて」

明久だけで充分だなはあ暇になりそうだ。

赤龍「暇にはさせないよ！」

そして戦闘が始まった。

明久 side

明久「雄二どんな殺しかたしてあげようか？」

雄二「悪いけどおことわりだあ！」

現在僕は、白い翼を6本生やして飛んでいが翼が一枚100点消費するものがデカいね。

雄二「降りてこよ明久」

明久「ヤダね」うらう！」

明久の召還獣の背中から白い球体が雄二に向かって飛んでいったが。

雄二「甘いな！明久こんなことも頑張ればできるんだぜ」

雄一の召還獣は身をかがめると右手を腰にあて左手を前に出して一  
気に両手を上に突き上げた！

バフウン！－！

明久「なつ！」

何と明久の放つた白い球体は雄一によつて跳ね返らせられてこぼり  
に飛んできた。

明久「ガード……一応僕が放つた技何だから」

雄一「残念だ」

明久「点数があるとこんな事もできるんだよ－」

そして僕の背中からはさつきの2倍合計12枚の翼が生えた。

**決勝開始！！ 本気のぶつかり合戦（後書き）**

一回に分けて申し訳ないです（^-^）

0話 明久と工藤とアメリカ！（前書き）

30000円記念にアメリカでの話

キャラクター

冬島 露 フュジマミオ

久世 夕紀華 クセユキカ

古川 和輝 フルカワカズキ

下川 真北 シモカワマキタ

明久の通つてたアメリカスイミングスクールの最後までいた仲間。

0話 明久と工藤とアメリカ！

コーチ「S1を100m8本始めて」

明久「和輝大丈夫？」

和輝「一応な今日も5kmも泳いでるぞ

」

真北「取り合えず始めるぞアイツはやらねえとうるせーからな」

僕は今、アメリカにある州立の州立のプールで泳いでる。

しかし自分でもタイムが速くなつたのは分かるが、コーチが厳しいためどんどん辞退していく人もいた。

和輝「人数も男子3人つて少なすぎだもんな」

明久「じゃあ行くか

更衣室

明久「やつと練習終わつた！」

和輝「いや～疲れたわ今日宿泊施設に帰つてさつとゲームやるか」

真北「俺もやるかなあ暇だし」

この後僕もゲームやるつかな。

明久がそんな事考えていると男子更衣室の扉が開きそこから  
明久「愛ちゃん!! 何で入つてきてるのー! 全員着替え終わつてから  
よかつたけど」

愛子「早く準備してよ皆ー今日遊びに行くんでしょ」

しまつた…忘れてた… 隅も忘れてたみたいだしつか。

夕紀華「忘れないわよねアッキー、カッキー…マッキー?」

真北「何で俺だけはてながついてるだよ

夕紀華「マッキーってなんか普通すぎで」

澪「早くいこ…時間がもつたといない」

明久「…さあ行こうマッキー」 フフフ

真北「笑いながらいうな

だってねマッキーって何かツボにハマつて…ハッハハ今度からマッ  
キーつて読んあげよ。

そしてぼくたちは外に出て行く場所決めるために近くのファーストフードのお店に向かった。

明久「ねーね結構いい行への

真北「この近くはほとんど全部いったからな

明久「そうだねマッキー

和輝「少し違う場所行ってみるか?」

真北「ここから、歩いていけ……なおかつ行ったことない場所……分から  
ないや。

真北「思いつかねえなあ……あつ! プールいかねえ?」

愛子「泳いだばっかじょん アイコチョップ!

真北「いってー何すんだよ愛子ー!」

夕紀華「マッキーが馬鹿な事いってるからだよ

真北「誰がb a……確かに点数は悪いけど」

本当にバカだねマッキーはそういうことの馬鹿つて意味じゃないの  
に、まつ言葉には出さないけど。

澪「でも後、一週間で合宿終わりだよ……何か思い出作りつい

他の話」「」「」「さうだけ! 完全に忘れてたーー」「」「」「

明久「だつたらせっぱりあの公園行こつよ  
「行こつよ

真北「だな、最初に皆が集まつた場所」

-----

あれから一週間

空港

明久「皆、まだ会おうねー！」

真北「あー会おうせー！」むカツコ良く行くぞ和輝

和輝「では、いつか

夕紀華「せうだね、バイバーイ！……行こつよ

澪「またあいまじょつせんそれでは

そしておののの皆違う場所に帰つていくなか僕と愛ちゃんも……

愛子「行こつかアッキー」

明久「僕達に涙何か似合わないよ」

愛子「そうだね行こう。」

そして僕達は日本の学校『文月学園』に向かった。

0話 明久と工藤とアメリカ！（後書き）

過去編ですね。

この第2の主人公が物語が……

人物紹介2を新しくしました見てください！

## 明久の一撃！ 神秘な翼（前書き）

明久「ねーね何で作者はこの回をためておいたの？」

作者「それはね……………明久は美味しい物は最後に取つておく  
だろ」

雅樹「なる程、他のやつは前菜でコレがメインディッシュってわけか」

作者「そりそり…正解…多分」

明久「何か締まりがないな」

作者「気にしない」それでは本編えええ

明久 雅樹「どうぞ…！！！」

## 明久の一撃！ 神秘な翼

明久「点数の消費は激しいな」

明久は自分の召還獣を見ながら呟いた。

雄二「チートだろ本当に…」

明久「そうだよ僕の腕輪は自分でも思う、《チート》だつてね」  
その言葉の後明久は雄二に12枚数の翼を槍のようにして、突き刺そうとしたが。

赤龍「うああああーー！」

横からすつ飛ばされてきた赤龍の召還獣がぶつかり、翼を回避したのだ。

雅樹「悪い明久…少し好奇心がわいてぶつけて見て」

明久「どんな好奇心？」

雅樹「召還獣と召還獣をぶつけたら点数が減るのか…あつー味方どつじでね。」

なるほどそれなら僕も気になるな…結果はどうだったんだろ。

雅樹「結果はモニターを見ろ」ニヤリ

雅樹がとても面白いものを見ているかのよつと笑っているため、検討はつづくが。

### 総合科目

2年A組 吉井明久 2843点  
&amp; 西園寺雅樹 2480点

VS

2年F組 坂本雄一 1536点  
&amp; 錦戸赤龍 35点

明久「点数が減ってるね……雅樹も」

雅樹「アーッと戦うのは一回目だがあの時より何か速くなつててな」

明久「甘くみてたらダメージくらつた」

雅樹「……ノーノメンツでいかせてもらつ」

そして僕はフイールドずっと見ていたはずなにあることできずいた。

明久「雄一達がいない」

雄一「じ名答一正解者に敗北というなのプレゼントをー」

雄二の召還獣は明久の召還獣の真上にいち、そして重力の影響でかなりの速度を出して、落ちてきた。

明久「甘いね僕の『暗黒物質』に、弱点はどんな物にだつてあるー。そんな事無い！」

雄二「甘いのはそつちだああ！」

そして雄二の召還獣はナックルを外し明久の召還獣に投げつけた。

明久「しまった！」

雅樹「何やつてんだよ明久！」

ナックルは僕の召還獣の頭に当たりしかも何故か氣絶している。

雅樹「待つてろ明久今いく『行かせない』邪魔だ」

赤龍「なあつ……なんてね」

雅樹「俺のやり方には反するが終わらせる」

雅樹の召還獣はまるで腕輪を使つてゐるかのように速く動き赤龍の召還獣にラリーアップをくらわせた。

赤龍「しまった！」

明久「ヤバいよ……かなりクラチャッタ」

雅樹「クソ明久一人同時に出発するぞ……って！おい！話聞いてたか！」

明久「武器が無いんだ、翼を使って一撃でしとめる」

雄二「はあ！ 大きくでたな明久！ そりくなくちや」

僕は狙いを定めて雄二の召還獣の脳天を狙つて撃つた。

雄二「クソあの翼邪魔だ！」

明久「よけたか、雅樹翼をしまつて連携プレーだ」

雅樹「オレさつきそれ言つたからな」

そして明久は翼をしまい腰についている、剣を抜いた。

雄二「翼をしまつていいのか」

明久「大丈夫だよこの勝負勝たないと行けないんでね」

雅樹「まあそういう訳だ……死ねえ！ 雄二！」

雄二「2対1とはなまあいいが」

暗殺剣を片手に雄二の元に走つて向かつたが何故か雄二の召還獣は腕を組んだまま動こいつとしない。

雅樹「動かなくていいのか？」

雄一「動くぞ……いざれな」

そして僕が首もとを剣で斬りつけた瞬間雄一の召還獣は身をひねり出して攻撃をよけた。

明久「うわあ！雄一がこんな事するなんて思わなかつた」

雄一「何だいつも大胆とか言いたいのか？」

雅樹「嫌そうだろ！」

雅樹も雄一の召還獣を投げようとしたがよけられてしまつていた。

明久「（拉致があかないよ、だったら）」は一発逆転の必殺技！（

明久の召還獣の背中からは2本の翼が生えたが、それは形を変え光の剣になつた。

雅樹「な、なんか凄いな見た目が」

明久「見た目だけじゃない！」

またしても雄一の元に向かっていたが、身をひねり出してよけられてしまつたように見えたが。

明久「僕に常識は通用氏ねえ！」

2年A組 吉井明久 650点

& 西園寺雅樹 85点

VS

2年F組 坂本雄二 0点

& 錦戸赤龍 0点

先生「勝者2年A組！」

明久「やつた！勝った！」

雅樹「よっしゃー！」

こつして僕達は、『召還大会』で優勝をおさめることができた。

## 偶然と偶然の重なり

とある日

清涼祭が終わり、お店などの片付けも終わりそして何と3連休がで  
きてしまった。

そして久しぶりに僕はベッドの上でゴロゴロしていた、休みって最  
高だなあ。

明久「ふ……やっぱり家が落ち着くな」

明菜「そうだね落ち着くな……さてとこ」飯作りますか

明久「そうだね明菜……って何で明菜がここなにいるの……」

ま、まさか…夜からここにいたのいやそれは無い……多分。

明菜「大丈夫だよ明兄きたのはつこせつきだから」

明久「ビックリしたあ……そういうえば朝ご飯何?」

明菜「そう家ばさつき坂本さんから電話がきてたよ

マジで何か約束してたっけ?ん~覚えて無いなあ。

明菜「何か遊ばないかだつて行つてくれば明兄、家の事は私がやつ  
ておくから」

明久「『めんね明菜、じゃあお兄ちゃんいってくるは』

明菜「『飯食べてからね』

明久「了解」

朝ご飯を食べて、歯磨き、顔洗つた、着替えた……用意完了！

明菜「明兄！8時までには帰つて来てね伸びるんだつたらメールして後「分かつてるよ」飯食べないならメール」……じゃあいつてうつしゃい！」

明久「行つてきまーす」

皆の待ち合わせ場所に僕は走つて向かつて行つた。

待ち合わせ場所！

雄一「なあ秀吉」

秀吉「なんじや雄一何か気になることでもあるかのぉ

雄一「何でこんなに人数が多いんだ？」

ざつと見ただけで10人近くその場所にいた。

康太「……リア充は滅びればいい」

愛子「まさかね～こんな場所で会うなんて」

優子「本当朝から秀吉が出掛けたから私も出掛けたら眞に会うなんて思わなかつたわ」

雅樹「気にするなそれより明久はどうした?」

竜也「だな、しかし偶然すぎだろこのメンツが集まるなんて」

その言葉通りここにいるメンバーは本当に偶然にやって集めれた。

メンバー

雄一　秀吉　康太　愛子　優子　雅樹　竜也

翔子　翔香　唯

後に

明久

出発ー！つて何で！こんなにこるのー！

現在僕は絶賛遅刻中だ、何故かそれは別の話で。

雄二「遅いな…明久…おつ！きたか」

明久「ごめん…！遅れたあ！」

秀吉「やつときたかのお明久」

皆待つててくれてよかつた…………。

明久「何でこんなにいるのー！」

雄二「気にしたら負けだ明久」

確かにそつかもこんなに集まるとは…偶然いや奇跡とでもいうのかな。

愛子「それより行こうよ

雅樹「悪いな俺と竜也は用がアルから抜けるわ」

竜也「マジで！遊んで帰ろうぜ」

雅樹「ダメだ帰るぞ」

竜也「何でここに止まつたんだよー！」

雅樹「通りすがつただけだ……じゃあな皆」

竜也が引きずられる……抵抗してゐる……ハラパンされて氣絶したね。

雄二「……行くか」

明久「……うん」

ゲームセンター！

雄二「やつぱり最初はこことだな」

唯「そうだね、遊ぶとしたらここだよね」

優子「でも何か定番すぎない」

そんな事言つちゃいけないよ、女子達が行く場所行く場所に文句つけてたんじやん。

翔子「ゲームセンター久しぶり」

翔香「そうだね……小学校……いろいろだよ」

愛子「いやあ～僕も久しぶりに来たなあ何週間前だつたけ

明久「さてと何から始めようかな」

ゲームの機種と台数はここが一番多いからね迷っちゃうよ。

秀吉「それでは明久よ音ゲーをやらんか?」

明久「フフフ…僕に勝てるとでも秀吉」

そして僕達は音ゲーの沢山ある場所に移動した。

唯「じゃあ私達そちらへんで遊んでいるよ

愛子「そうだね行こつか

雄二「ムツツリーー俺達はどうする?」

康太「…明久達を見に行く」

-----

音ゲーゾーン!

明久「このギターを使つたやつで勝負だよ秀吉ー」

秀吉「明久ワシを甘く見るで無いぞ」

試合開始!

大丈夫、このゲームは何百もやつたことがあるから攻略できる。

秀吉「(ワシもコレくらができるのじゃー)」

試合終了！

秀吉「ざ、惨敗じゃ」

明久「僕に戦いを挑む事じたいがダメだつたんだよ秀吉」

雄二「やるんなら秀吉、格闘ゲームだろ」

明久「なら雄二勝負する？」

雄二「望むところだ明久行くぞ！」

僕達は格闘ゲームのある場所に睨み合いながら向かって行つた。

## フレーム&amp;・ブリザード（前書き）

明久の独り言

明久「何か最近疲れてきたんだよね」

明久「何故か？分からないよ自分でも腰とか……ね」

明久「ん？何？独り言言つてるとハゲる？……うるさいな別にいいじゃないか、僕だって独り言つ時もあるの」

本編へ

## フレイム&amp;ブリザード

明久「う、嘘でしょ……」

雄二「単純な攻撃ばかりなんだよ明久」

明久「くう……ハア今日は僕の負けだ」

何故こうなったかは少し時間を戻そう。

15分前

明久「雄二が僕に勝てるの?」

雄二「当たり前だろ、お前ぐらいすぐ倒せるわ」

僕に挑んだ事を後悔させてあげるよ。簡単にいふとボコボコにしてやる。

雄二「明久……後悔するなよ」

明久「ゲームの神の力見せてやる」

今回僕がやるのは、『フレイム&amp;ブリザード』3次元空間で能力を使用して戦うバトルだ。

雄二「まずこのゴーグルをつけて」

明久「グローブもつけて」

明久 雄二「それじゃあ始めるか！」

このバトルはどれだけ能力を効率よく使うかだ、まず手に炎を作つておいて雄一を見つけた瞬間発射する。

雄  
— 明久最初にいうかこの勝負俺がいただいた！」

明々  
ん?  
二ね二!  
せられた  
何で場所  
が分か  
たの!

左近 気にする

クレバは負けないぞ

皇祐二年八月癸酉朔廿二日癸未

佐々木 おいおいどんじた田久

田父山

こーなーた考えかえす行動た！

暇欠といたぐる見かなし！」

炎で自分の身体を「一 ティングして剣を作つて…… さやあああああ

明久「う、嘘でしょ……」

雄二「単純な攻撃ばつかなんだよ明久」

明久「くう……ハア今日は僕の負けだ」

雄二「久しぶりに勝つたぜ」

明久「スッゴい悔しい！」

何と負けてしまった…ゲームだからこそ悔しい！

短い！！

ゲームはルールを知らないともできるんだよー（前書き）

タイトル長いなーあー…ジーもバカと不幸です。

いやいや独り言をしゃべつてるのに始まるとは思こよからず。

世界とは違う空間

さて、少しこれからについて調整役バランサーに聞いてみましょ…まあ正確にいうとこの話の全てを知っている人間です。

? 「おいおい俺をこんな所に呼んでいいのか?」

気にするな、それよりそろそろこの話は進める感じじゃないか。

? 「いいぜ別に俺の出番が速まるんだろ」

確かに、この空間から速く出てこなして話をシナリオひとつ進めろ… 真北。

真北「了解した」

本編へ！

ゲームはルールを知らないともできるんだよー

愛子 side

唯「戀ひや と~何やる?」

愛子「ん~意外とやりたいもの見つからないね、優子達は何かない?」

さすがにここでシューティングゲームっていうのは不味いからね、何か女子がシューティングゲームって恥ずかしいし……周りの目線が痛いし。

翔香「だつたら…KILL POINT Aやらない?」

愛子「へつ? ……それってアレだよね」

翔子「…翔香、優子とかいるんだからそれは家でやればいい」

「どうやつ? と~家でやればいい? ……想像はつこたけどコレだけはこえる……。」

愛子「さすが霧島家」

優子「ねー愛子KILL POINT Aって何?」

愛子「機械はアレで拳銃を持つてビルの中に潜入して敵を倒していくゲームだよ」

唯「それ私も知ってる!ボスがゾンビの奴でしょ!」

翔香「爽快感が…たまらない」

そして僕達はKILL-POINT Aの機械のもとに向かつて行つた。

優子 side

聞いたこともやつた事もないゲームのもとに私は向かつて… 実際ゲームセンターなんてあまりこないし。

愛子「優子? 何か考え方してた… 行くよ!」

翔香「チームは… どうする?」

優子「ジャンケンで決めましょ!」

皆「最初はグーグージャンケンポイ!」

結果は

愛子 優子

翔香 唯

「優子」、「みひじくね優子」、「ココ

ヤバい」、「負けたら恥ずかしい」。

「優子」、「行きましょ優子」

結果！

「優子」、「何でそんなに上手いの優子」

「優子」、「わ、分からない」、「何か撃つたら当たってね」

「何と私と優子のペアードこのゲームをやつてて出てきたキャラが気持ち悪すぎたから」、「そして後は覚えてない」。

「優子」、「かかったよ優子、皿つぶつてたけどね」

「優子」、「それは言わないでよ優子」

「得点は……18239点」、「優子がいつも」「こんな得点見たこと無いくつ……あつー」、「ランキング1位」、「うらじー」。

唯「じゃあ私達行つてくるね」

翔香「行こうか…唯」

結果だよーん!

唯「まあまあだつたかな」

翔子「…いいほひじやん翔香」

翔香「愛子と優子が…とつすぎだよ」

翔子「…私のばんだねよーく見ててね」

そして翔子は銃を持つて画面を見たその目つきは狩人そっくりだった。

ゲームはルールを知らないともできるんだよ！（後書き）

話が急速に変わる！？

## あの仲間達登場！？（前書き）

明久「そうええ、11月22日って作者の誕生日だよね」

投稿されるのは23日だけね。

雅樹「今日は確か、いい夫婦のグヘエ！何すんだよ！」

そこにふれてはいけないぞ、雅樹

明久「そ、うだよ、バカ不さんは非リア充だもんね」

う、うるさい……！」

明久「まあ僕も人のこといえないけどね」

黙れ！リア充！FFF団呼ぶぞ！

雅樹「それより本編いこつぜ」

本編へ（Ｔ－Ｔ）

## あの仲間達登場ー!?

愛子 side

今僕はとても凄い物を曰いているそれは……

優子「過去最高記録つて……どうこ'うこと?」

愛子「まさかね、翔子ちゃんがこんなにできるとは思わなかつたよ」

翔子「……翔子ちゃんって呼ばないで」

僕達がたわいもない話をしていると、男の人が「あらに向かって話かけてきた。

?「いやいや、君たちから暇? 僕達と遊ばない?」

?「おー可愛い子いるじゃんなあーマッ……」

マツ?「どうこ'うこと?」待つてこの声どこかで聞いたことがある。

?「バレたなオイ、和樹いつも冷静なお前がな

?「すまない、真北」

まさか!あのいつも冷静沈着の和樹君とバカなマツキー?

和樹「久しぶりだな愛子、夕紀華と澪はまだきてねえよ」

真北「あの二人なんか知らないけど服買いにいつたぜ」

澪「もう買い終わった」

夕紀華「久しぶりに皆にあいにきたよ……あれ?私の愛しのアツキーは?」

え?愛しのアツキー?……アツキーに何をしたの!?

真北「何が愛しのアツキーだ、バカか?お前は」

夕紀華「バカにバカつて言われても説得力ねえし!」

真北「宇宙人の言葉何か分からねえ?」

夕紀華「ヴァカー!人間の言葉も分からぬ……異星人にいわれたくないね」

何だろ……前より仲が悪くなつてないかな。

和樹「愛子氣にするな仲が悪いのは前々から知つてるだろ」

愛子「確かにそうだけど」

唯「あ、あの二人ケンカしたままでいいの?」

優子「私も思う」

愛子「気にしなくていいよ」

多分おさまると思つから……ね。

明久「何やつてんのあ……マッキー！？に和樹？」

真北「誰がマッキーだ！！」

和樹「久しぶりだね明久」

夕紀華「ほらアツキーにもマッキーだつてハツハハハツハハ」

真北「笑つてんじやねよ！」

あの仲間達登場！？（後書き）

真北「何かあまり活躍の場が無かつたな

気にするな真北、それよりあの計画はすすみそうか？

真北「焦るな…多分できると思つ

この小説はいつまで持つか分からぬ、そのための予備としてお前  
を呼んだ

真北「後は任せ

分かつた任せ

『必読一』必ずお読みください。今後の『』が書いてあります。

『一 もバカと不幸です。

最初にいいます…… 小説を止める事はありません。

この質問です、今このまま『バカとテストと召還獣』の一次を続けるかそれとも他の『アニメ』を持ち込むかを考えています。

セイジです。

どの話を持ち込んで欲しいかそれとも持ち込まないかを…… 決めてもらいたいんです！

身勝手ですがすみません。

1 未来日記

2 とあるシリーズ

3 緋弾のアリア

4 そのまま

5 しらねえよ！

この中から選んで番号で答えてください！

少しだけ紹介！

## 未来日記

天野雪輝は日記が趣味の中学生。彼は自分の知らぬ間に「未来の出来事が書かれた日記」を巡る、殺人ゲームに巻き込まれてしまう。

とある

超能力者達が沢山住む、学園都市で起こされるストーリー。

## 緋弾のアリア

……説明しづらいので調べてください。

それではお願ひします。

それでは。

ケンカと日記ー（前書き）

決定しました！

1が一票

2と3が一票づつ

そして4が一票でした。

そのたるものる、友達に聞いた所…… 1がいいのではとこりとじ  
……よつて1で頑張らせていただきます！

メゲない諦めないをもつとこりりますのでよろしくお願いしますー！

真北「そういえば忘れていたが『デウス』他の『日記』所有者も決  
まつたか?」

悪いがまだきまつて無い、そちらで決め手くれても構わないが

真北「いやいやそれは遠慮しておくよそれではつまらねえ」

お前の知り合いがなるかもしかんが構わないか?

真北「構わねえよ、俺はどちらでもいい」

では、次は全員揃つた時会おつ

真北「じゅあな」

ムルムルside

大聖堂

ムルムル「確定の人はきまつてあるがその他の人はどうするのじゃ

?」

デウス「気にするな、お前」ときじゃあ分からぬ

何じゃデウスの奴儂だって意外とわかるんじゃぞ!

デウス「それではこのメンツでいいな」

マルマル「ほおー他の奴も、今選んだのかまあどうせしても《テウスお前自身の体は持つのか》?」

デウス「だから速く始めるのだ」

掘めん奴じやのおへしかし……『ヤツは日記をつまへ使えるのか……』

『吉井明久』。

明久 side

ゲームセンター!

真北「すまんおくれた!」

夕紀華「あれ?まだいたの?帰ったのかと思つた

真北「怖じ氣ついて帰ろつとしたのはお前だろ? なあ《コッキー》

あれ?なんか夕紀華の身体から赤黒いオーラが出てるんだけど……つて! 皆逃げるの早!

夕紀華「今日とこつ今日は許さない!」

真北「お前は神か?別に許して貰わなくて結構だ」

明久「まあまあ二人ともケンカはそれぐらいにしようよ

二人「明久は口をだすな（出さないで）！」

明久「ひい！……」めん

何で僕が怒られたんだろ……止めに入っただけなのにしかし二人から

のオーラを感じているのか、一人の周り誰もよらないね。

愛子「ほおつておこアツキーほら皆いなくなっちゃったから

明久「そ、そうだね流石にこの場面じゃ

退散が一番でしょ！

クレープ屋！

明久「うん、やつぱりこの《バナナイチゴスペシャル》が一番だ

雄二「分かつてないなあ～明久はこの《アップルシナモン》こそ一番美味しい

秀吉「好みは人それぞれじゃ」

康太「……確かに」

それを言つたらおしまいだよ、秀吉にマッソードー！」。

明久「それにしてもあの一人遅おつと一電話だ……真北からだ」

明久「もしもし、どうしたの？」

真北「おこおい明久お前ら这儿に行つたんだよ」

明久「クレープ屋だけど」

真北「まじかよ……まあ「アッキー達这儿」の分かた?」うるせえな今分かつたから行くんだよ」

まだケンカしてゐよ……何でケンカばかりしてゐんだ……あれ?

明久「何で僕日記何て書いてつたけ?」

愛子「どうかしたのアッキー?」

明久「い、いや何でもないよ」

何だろバレちゃいけないけないきがする……。

雄一「メール?……誰からだ?……つー……よくわからんが……」

ん、どうしたんだろ?雄一?まあいつか。

ケンカと日記ー（後書き）

皆さん感想ありがとうござります！

意見くださった方本当に感謝しております。

それでは引き続き見てください、それではー。

## 集合メール?…まあ掃除しよ

明久 side

あの僕は、もう一つゲームセンターを回って皆と別れて家に向かう途中の道にいた。

明久「（メモ帳の所にあつたあれは何なんだろう）」

昔書いてた、『無差別日記』が更新されていた……一番びっくりなのが『未来』の事が書いてあることかな。

明久「びっくりにせよ、早く家帰ろ」

-----

吉井家！

明久「ただいま」

明菜「おかえり明兄」

おつーまさか姉さんは居ないのか。

明菜「明兄、玲姉さんは家の掃除私としてるよ」

明久「あ、あの姉さんが掃除……まず最初に掃除できたの?」

玲「明くんその言い方から見ると……姉さんは掃除ができないといつてるんですね」

うん、そうだよ僕は姉さんが掃除できないと何のタメライもなく言ったよ、だつて……ねえ。

玲「失礼な事考えている「心の底からすみません」……」

明菜「わ、わあ明兄も帰ってきたんだから大掃除するわー!」

一応掃除はしてるつもり何だけどな。

リビング!

明菜「さて、今回の掃除ですが……各自の部屋以外は全て片づけました……といつことで、あみだくじで場所を決めます

といつことの意味が分からぬいよ……

明久「(せういえば、未来の事が書いてあるなら……)」

そして僕は携帯を開いて、中を見た。

明菜「どうしたの?メール?」

明久「メールかと思つたら違つたみたい」

「レで確認はした、一番右側が僕の部屋だ！！

明久「僕一番右側ね」

明菜「私真ん中！」

玲「それでは見てみましょ」

結果！

明久 自分の部屋

明菜 玲の部屋

玲 明菜の部屋

明久「（当たつたてる……しかし何で書いてあるんだる……ん？メールだ）

明菜「それでは掃除スタート！」

明久の部屋！－！

明久「誰だろ」のメール？まあいや開けてみよ

内容

吉井明久様、今夜の12時は必ず家にいてください。

未来日記の説明をいたします。

集合場所 大聖堂

案内人 ムルムル

それではお待ちしております。

何コレいたずらメール?はあ~未来日記つて何だよ。

明久「いいや掃除しよ」

まずは……机の上からだね。

教科書の山を下に下ろして、いる物といらない物に分けると。

明久「プリントが沢山入ってるな~」

明菜「明兄、手伝おうか?」

明久「あれ?明菜は掃除終わったの?」

明菜「終わったよ、元々余り汚れて無いしね」

それは僕にたいする嫌みか何か?確かに汚いよ!それでも頑張つてやつてんの!

明菜「まあ頑張つてね夜は鍋だから」

明久「分かったよ」

1時間後

明久「ぜ、全然綺麗にならない……」

な、何で！掃除するたびに汚れていくよ……。

明久「必殺技！『放置』」「ダメですよ明くん」……だよね

玲「明くん掃除を手伝いましょうか？」

明久「……オネガイシマス」

玲「よろしい、それでは始めましょう

姉さんに手伝つてもらつてからと「う」と、僕の掃除かたとほほいつ  
しょなのに、片付きかたが違つた。

明久「す、すごい向でこんなに片づくの？」

玲「コレが普通何ですよ明くん」

明久「しかし綺麗になつたな」

明菜「二人とも『』飯だよ！」

ふうー やつと『』飯だ、今日は鍋だよなさあ早く食べよー！

リビング

三人「いただきます！」

明久「まずは肉からだよな」

明菜「早く食べてみて」

ん？何でこっち見てんだろ？まあいつか。

明久「……っ！美味しい！」

明菜「やつぱり…やつぱり…『』『氣づいて！』

明久「タレを自分で作つたでしょ」

明菜「正確だよ明兄！」

しかし、流石だかなり美味しい！

玲「家に一人でも料理が上手い人がいると助かりますね」

明久「本当だね、明菜はいい『お嫁さん』になるよ」

明菜「そ、そんな明兄ダメだよ…兄妹ででなんて」

へ、変なこと考えてるよね、絶対に明菜の暴走、……とでも呼ばうか。

明菜「沢山食べてね」

深夜

? 「起……のじや…久よ」

誰だ? うん僕の視界に……小さい人間…人間! ?

明久「だ、誰? 君は」

ムルムル「ムルムルじやよ書いてあつたじやろメールに

あー書いてあつたな確かでも……眠くない!

ムルムル「着いてこい明久よ他の所有者はもつきているぞ」

明久「了解だよ」

そして僕はムルムルの後について黒い穴の中に入つていった。



## 未来日記所有者達！！

明久 side

ムルムルの後にについて行くと石の道が現れた。

明久「ねーねいつまで歩くの？」

ムルムル「もう少しじゃ……ほれ見えてきたぞ」

ムルムルが指をさした方向には、石の扉があった。

明久「ここはいつの時代なの」

ムルムル「第三十八因果律……時代は知らないのじや」

何か適當だね随分と

ムルムル「このあとは一人で行くのじや」

そして石の扉を進んでいくとそこには……

明久「（ひ、広い！）」

そこに居たのは、僕を含めて12人の人。

そして真ん中に穴が空いていてその穴の回りに12人の出っ張りがありそこには人がたつっていた。

「デウス「全員揃つたか」

「デウス「では、全員が揃つたところで早速この《サバイバルゲーム》について説明しよう」

「サバイバルゲーム？ そんな話聞いてないけど……」

「デウス「まずは君達が手にしている《日記》これは、《未来日記》と呼ばれるものだ」

「デウス「コレは私が選んだ者……つまりここにいる全員がもつている……この《未来日記》は、時間を歪め90日先の未来までの日記が知れるようになっている、自分の未来がわかるということだ」

「デウスがそう説明していると5番田の場所にいる誰かが手を上げた。

「5番田」「俺達の姿は他の《未来日記所有者》には見えているのか？」

「デウス「その質問だがお互いの姿は見えぬようになつておりなおかつ声も変わっている」

「確かに5番田の声はノイズが混じつてた。

「8番田」「何度かこの《日記》が勝手に換わるが日撃しているが……？」

「デウス「ウム、所有者達の行動次第では《未来》は変わる」

「6番田」「待つてくださいー何もしなくても未来が変わることがありますたがそれは？」

デウスはフツと笑つと……

デウス「それは近くに『未来日記所有者』がいて未来を変えた……では」

明久「それじゃあ自分が死ぬのも分かるの？」

デウス「『DEAD END』の予告……日記所有者が他の日記所有者を「殺す」ことが確定したとき[事前]に『死の宣告』がなされる事にしたのだ」

デウス「これは未来をえても回避不可能な『死』だ、いわゆる「摘み」の状態だな」

回避不可能！じゃあ死んじゃうじゃん……

10th「僕から質問してもいい？……殺すといつてもお互いの姿は分からぬじやん！」

デウス「それは自分の『未来日記』の情報から推測をする」

5th「ゲームは相手の正体探しから始まるわけだな」

明久「ば、バレれば死ぬつてこと？」

デウス「正体を突き止め『DEAD END』フラグを立てる」万一立てられた場合奇跡にかけ『死力を死んで』して回避する』……それがこの『サバイバルゲーム』の基本となる」

デウス「そして、この『サバイバルゲーム』を勝ち抜いた最後の一

人には、この私の後継時間と空間を支配する《神の座》を譲りつい—  
！」

やつぱり何か凄いのに巻き込まれてるよ—

デウス「死か生か《殺される前に殺せ—！》そして《神の座》を勝ち取るが良い！」

9th「弱い奴から狙つこれ基本…なので1stお前だ」

え！待つて何かおかしくない！

5th「ハツハハ頑張れよ1st！俺は忙しいからな

4th「大丈夫だ必ず君は助ける」

デウス「コレにて閉会する！」

明久「まつ…

そして僕達は元々居た場所に戻された。

明久「や、ヤバいよ絶対に狙われる…武器でも買おつかな…  
それより寝よ

朝だよ—！



明久「変なことになつてるよ……」

明菜「ヤバいよ! 遅刻するよ明兄!」

そういう明菜も遅刻しそうじやん。

明菜「目覚ましがならないんだもん!」

玲「ほら、一人とも」飯は作りましたよ

二人「ありがと……じゃあ行つてくる!」

学校

翔子「……おはよー吉井」

明久「おはよー霧島さん! あれ? 木下さんと繋がりやんは?」

唯「遅刻らしいよ! わつきメールがあつた」

明久「おはよー唯

雅樹「遅刻ギリギリ……だなハアハア」

明久「おはよう雅樹」

雅樹「ああおはよう明久」

何かスッ「ゴ」に息上がりてるなあ～多分全速力でここまできたんだろう。

先生「皆さん席に座ってください」、転校生の紹介をします

転校生?……ああ真北達か

先生「それでは入ってください」

そして入ってきたのは……夕紀華に和樹、澪……あれ?・真北は?

夕紀華「どうも、久世夕紀華と申します」コレからよろしくお願いします

な、何だろいつもの夕紀華と違つ絶対違つ!――

和樹「古川和樹です、ようじく」

澪「冬島澪です……よ、よろしくお願ひします」

澪……かなりテンパってね……噛んでたもん。

愛子「優子「遅れました!」

和樹「おつ、愛子遅刻か?」

愛子「カツキー……そつかー転校生でくるって話だもんね

澪「愛子……真北はFクラス行つた」

「マツキーやつぱりFクラスいつたんだ……ノーコメントでいかせてもらひうよ。」

先生「もう一人転校生がいますが……現在来ていないので「すみません、遅れました」……何かあつたんですか？」

？「大変申し訳ない、少し朝から用事がありまして……」

初日から遅刻とは、しかし朝から用事つて気になるなあ。

先生「自己紹介をしてください黒柳くん」

大和「了解しました、僕の名前は黒柳大和です、気楽に話しかけてください」

先生「それでは、皆さんそれぞれの席に座つてください」  
みんなどこに座……皆僕の近くじゃん……

大和「よろしく……ゴメン名前が分からなくて」

明久「明久だよ、よろしく」

大和「明久君よろしくね」

和樹「夕紀華そろそろ猫かぶり止める」

夕紀華「ファースト印象は大事でしょ……そんな事言つたら和樹だつて目つき鋭くしてたじやん」

明久「何か凄いね……盛」

澪「よろしく、明久」

明久「よろしく 濶」

何だり……やっぱり澪との話が一番落ち着くよ。

## 未来日記所有者達ーー（後書き）

未来日記の所有者は原作とはかなり違います！

オリジナルストーリーもありなので！

オリジナルの日記お待ちしております。

キャラクターも！

腕輪も待っています！

## 口記所有者の襲撃！（前書き）

Bieberもバカと不幸です。

大変申し訳ありません。

若干熱があるのとテストが近いと不幸が重なりましたなのでもう更新が遅れる可能性があります。

早く治して投稿したいと思います（Ｔ＿Ｔ）

身勝手で申し訳ありません

日記所有者の襲撃！

授業終了！

明久「ふう～授業終わつた！」

雅樹「帰るか明久」

明久「そうだね！」

？「『』めんね、職員室わかる？」

誰だろ？……同学年にいたかな？

？「君の名前は？」

明久「吉井明久だけど君は？」

？「やつぱりあなたがね……私は……9thー！」

なんだつて！あの時最初に僕を狙つてた！

9th「1st！予告どつり殺しにきたぜ！」

そういつた後突然廊下が爆発した、そして煙が当たりをたちこめた。

明久「うわっ！煙で周りが見えないよー！」

雅樹「なんだよコレ！」

「……には沢山の所有者がいると出でているからな！——網打鬼にじてやるよ。」

煙が無くなつた時にはもう姿は消えていた。

明久「何で僕の正体がばれた」

雅樹「なんの話だよ明久！」

明久「雅樹はここで待つてて」

とにかく今は9ヶ月を探さないと！何で僕の事が分かつたんだろう！

明久「しかしそつもの言葉気になつたな

とにかく学校中を走り回つて探すか。

明久「無差別田記にも反応無しか  
？」「アツキー何してんの？」

明久「愛ちゃん！何でここにいるの？」

愛ちゃんはそこに立ち止ると僕に携帯を見せてきた。

「愛子」「武装日記……コレが僕の日記だよ」

明久「なつー愛ちゃんも《未来日記所有者》つてことー」

まさかー愛ちゃんが所有者なんてだったら何番?

愛子「僕は10とかだよ……さてアッキーには協力しようつ

明久「う、うん分かった」

ここは見方が多いほうが勝てる確率が上がるはず。

明久「よろしく……では早速行こう」

愛子「まつてアッキー 武器持つて無いよね……はいこれ

何これ?…………えつ!ナイフ!

愛子「もしゅせんとあつたらコレを使って」

明久「何でこ、こんなの持つてるの」

愛子「私の日記が教えてくれた……今日、ナイフ、拳銃が必要だつて」

まつて!何でそんなの持つてるの!拳銃何か普通手に入らないよね。

愛子「この日記は、いつぞいで武器を使つかまだつて手にはいるが、後どんな武器を持っているかな?」

明久「僕の日記は「ドカーン!」な、なこー」

愛子「どこかが爆発したんだと思つ」

明久「僕達の行動が分かるのかな」

愛子「多分分からないとと思う分かつてるなら直接くるはず」

確かにそうだねわざわざ爆弾何かで攻撃してこないもんね。

愛子「あと今回の目的はアッキーに『DEADEND FLAG』をたたせる」と、今アッキーにたつてゐるでしょう

明久「本當だ、校庭で後20分後に死ぬ！」

覆さなきやー奇跡をおこすんだ！

明久「ここに至つて未来は変わらないだつたら行こう校庭に」

愛子「だね僕にもたつてゐよ……爆弾で死ぬつてね」

明久「絶対に倒してやるー！」

30後僕達は大変な目にあつたそれは……

## ■□□中心日記（前書き）

これから投稿が不定期になります…… 金曜日から火曜日まではテストがあるので更新できません（Ｔ＿Ｔ）

それでは本編へ

明久 side

愛子「今、9時に爆弾とナイフを持っているよ」

明久「ここもダメだ……階段の全部に爆弾がついてるよ」

愛子「どうしてついてるかわかる?」

場所なんて書いてあつたけ?……あつた!

明久「階段の12段目だつて」

愛子「私の日記は知つてるよね」

明久「武装日記でしょ」

愛子「そこまで知つていて分からぬの……」

「でも馬鹿と言つたいのかな?流石に酷いよ」

愛子「解除する方法がここに書いてあるの」

明久「なる程……それがどうしたの?」

愛子「ここまで馬鹿とは思わなかつたよアッキー……」

また馬鹿にしたな……つーなる程分かつた分かつたよー

明久「爆弾を解除するんだね……でも時間かからない」

「 うわあ、やがてここに着くやつだね……」

愛ちゃんはそう言つたあと落ちてたゴミを拾つて…………爆弾の方に投げたね「しゃがんで！」

- 1 -

ズド――――ン！――！――！

明久「うあああああああ！」

愛子「確かにこっちの方が早いね」

そういう問題じゃないでしょ……なんか大胆になつたね愛ちゃん

明久「まあとにかく校庭に行こう!」

僕達は昔階段だつた場所を進み始めた。

明久「きたはいいけど……9時はいないね」

校庭をみわたすかぎり人影は無いそれどころか人がいない。

愛子「まさか僕達騙す「そんな事はしねえよ!」だ、誰!」

9時「私だよ……名前を名乗つてなかつた私の名前は土根崎みより《しぬざきみより》だ!」

「

明久「日記所有者だな」

みより「当たり前だろ、9時つて行つてんだからよ

いちいちムカつくしゃべり方だな、しかし何で僕の正体がばれたんだ。

みより「自ゴロ中心日記、私の日記は1日12回自分の思つた事を予知できる」

愛子「地味なチートだね」

明久「そんな事より他の生徒はどうした!」

「

みより「落ち着け……全員無事だ、ただし全員クラスから出られなくしている」

ならいいや……人質とかしないんだね。

みより「悪いが神になるのはこの私だ」

愛子「ねーこの学校に所有者が沢山入るって話だけど何人いるの?」

みより「教えねーよ!知りたければコイツを探せ」

みよりはこちらに紙を渡してきた。

明久「5七十?」

みより「この学校にいるらしいんだがどーも正体が掴めない」

愛子「コイツを探せと……………」

みより「ああそだコイツを探してもう一つの間は攻撃をしない……見つけたら私を呼べ」

確かに良い案だね!DEADENDフラグも消えるし。

愛子「信用できない」

みより「だつたらコレを持つてろ」

みよりはこちらでクロのネックレスを投げてきた。

みより「それは、私の一番大切な物だ」

明久「分かったよ」

みより「飲み込みが早くてすむ……頼んだぞ」

明久「分かつた」

そして突然現れた車に乗つてさつていった。

愛子「5th……探さないとね」

明久「うんそうだね」

校庭は前のように風の音だけが響いた。

## ■中心回路（後書き）

■中心回路

自分の思った事を予知できるらしいが予知ができない場合がある。

1日に1-2回予知が可能（DEADZONEフラグは別）

所有者 士根崎みより 9th

学校休暇……季節は夏……海しかないないでしょ！――！――！

明久 S i d e

現在僕は車の中にいる。

優子 何かすみません私達まで連れて行こうで

玲一 いいえ、明くんがどうしても皆を連れて行きたいと行っていたので

人が沢山いたほうが遊ぶ方法が増えるでしょ、それに家族だけだと僕の『全て』が姉さんに奪われそうだからね。

明久 しかし人数もヒッタシで良か<sup>一</sup>たよ……」

雅樹「和樹、咄は『くな明夕後』の車を忘れたか?」

明久一覚えてるよ、たしか雄一と秀吉と霧島姉妹とムツツリー……  
：誰だつけ？」

ブルブル

明久「あつ！電話だ……ブチ……さあ海樂しみだね！」

雅樹「電話でうやや！」

「んな都合よく真北からかかってくるんだもんやだよ。

澪「しかしさか登校初日」《国際犯罪者》がくるとはね

夕紀華「確かにね、学校の一部が爆弾で無くなつたせいで学校は休校……私はいいけどね」

明菜「そなんですか！知りませんでした！」

愛子「もしかして聞いてなかつたの？」

明菜「はい、二人には「明日から海行くよ」としか聞いてません」

明久「まあいいじゃん」

よくないけどね、実際は。

澪「それにしてもトンネル長いね」

玲「お待たせしました、皆さん右側を見てください」

トンネルが開けるとそこには、「バルトブルーの海、ハワイのよつな道、ヤシの木が道の横に立っていた。

夕紀華「す、凄い場所にきりやつたね」

優子「た、確かにそうね」

明久「懐かしいな～姉さんここ来たの何年ぶりかな」

玲「何年ぶりでようか中学になつてきていませんから……4年ぶりですかね」

そんなにたつんだね……懐かしいなあ。

澪「私達は来たことなかつたよね」

夕紀華「確かにね……こんなに沢山家に入るの?」

明菜「入りますよ、8LDKだからね」

明久「リビングは広かつたよね」

玲「そうですね、確かに50畳でしたからね」

他の皆「(まさかのお金持ち……あの明久がね)<sup>アッキ</sup>」

皆の視線がこっち向いてる……何でだろ?多分霧島さんの家の方が広いと思うのに。

雅樹「ち、ちなみに聞くが明久の両親は何をしているんだ」

明久「母さんがアメリカの銀行で働いてて父さんは……何だつたけ?」

玲「フテルビヤホテルオーナーですよ」

澪「す、凄いよ!あの5つ星のホテルだよね」

明久「えつー皆知ってるの?」

夕紀華「知ってるも何も、一流のホテルだよ！」

「そうだつたんだ……でも父さん「俺のホテルはまだまだレベルが低い上には上がいるからな」って言つてたけど。

明菜「そろそろ着きますよ皆さん」

優子「よくわかるわね、そんなの」

明菜「私の記憶力は明兄の5倍だからですよ」

明久「遠田にバカにされたような気がするんだけど」

雅樹「気にするなバカはバカだ」

失礼な僕は一応Aクラスだぞ。

ブーブー

明久「メールがきた……何でそんな事予知してんの……」

みよりからメールがきたそこには「後30分後に鼻血を噴射して倒れるつて日記に出てるぜ見れないのが残念だ」……だから何でそんな事予知してんの。

愛子「アッキー皆の前で「日記」の事を言つのはやめて

と耳元で呟いてきた。

明久「「めぐ」「めぐ」

玲「着きましたよ皆わん」

雅樹「さてと、早速泳ぐか！」

明久「そうだね！」

そして僕達の車で女子が着替えて、後ろの車で着替えることになった。

少し時間がたつた！！

氣にしてなかつたけど、もう30分たちそうだよ……外したな。

愛子「皆着替えてきたよ～」

康太 明久「ぐはあああ！」

僕達は鼻血を出して気絶した。

？「あ…………て……アシ…………もあ…………！」

誰かが近くで騒いでる……なんていつてんだろ……。

？「明……起きな……いと……よし……い……だ……」

ビシヤ——！

明久「うわ——！……何するのや——！」

康太「……同意見だ」

ムツツリー——も水かけられたんだ。

雄一「お前らはだらしな」何いつてんの雄一「……やめろ梨花氣持ち悪い」

梨花「ぶつ瀆すぞクソ野郎」

この「人……真北と夕紀華みたいだね……」。

海だ！夏だ！水着……鼻血がとまりばん！！

ムツツリー＝s.i.d.e

夏はオレの商会の売り上げがあがる……何故だか分かるか……そう  
これアガル、ブファ！！

秀吉「またムツツリー＝が鼻血を出して倒れたのじや」

雄二「おーい明久、輸血パック持つてきてくれ」

明久「分かつたよ雄二」

クソまだ30枚しかとつていないので……視界がせばまつてい……  
……。

雄二「遺つてこいムツツリー＝……すまない明久に連絡してくれ」  
今からムツツリー＝を運ぶからAEDを用意してくれって」

真北「これは完全に逝つちまつたな」

和樹「もしもし明久かAED用意しておけ……おお……頼んだぞ」

雄二「運ぶぞ俺は足を持つから真北は手をもて」

真北「了解」

そしてムツツリー＝は明久がまつ車に運ばれた。

ん? 何か浜辺の方が騒がしいなあ

梨花「ムツツリーーが倒れたんだな」

優子「ねえムツツリーって誰?」

あれ? 優子ムツツリー君の事知らないの? .....あれ名前なんだつ  
け?

翔香「土屋康太... 寡黙なる聖職者だつたはず」

愛子「聖職者じゃなくて性職者だよ」

翔子「...愛子言葉で言われても分からない」

そうだよね..... 良い説明方法思いついたよ! -

愛子「[放送禁止だよ~ん]の性だよ」

澪「..... 愛子そのたとえは駄目だよ」

夕紀華「じつ意見だね」

別に変な事言つてないんだけどなあ~ただ「またもや放送禁止」つ  
て言つただけなのに。

玲「皆さ～～お匂い飯にしませんか？」

皆「そりで…………な、なんてナイスバディ何ですか！――！」

翔子「……絶対に負けた」

翔香「まだチャンスはある」

梨花「自信喪失ってヤツだね」

アツキーが鈍感な理由つて…………まさかね。

明菜「」飯は外に用意したのでそのまま来ても大丈夫ですよ

澪「吉井家は何で皆ナイスバディなの？」

夕紀華「アメリカ育ちだから？」

澪「私達もアメリカにいたよ」

愛子「何か一人とも魂が抜けたみたいになつてるよ」

たしかに、明菜ちゃんの身体つきはモテルみたいだけ……負け  
てない――はず

明久「あれ？ もう」飯？」

明菜「軽食だけどね」

雄一「それにしても……最高だな」」は

明久 side

雄一が感動に浸っているけど……醜い顔だね。

雄一「明久俺にたいして酷い事考えなかつたか？」

明久「別に考えてないけど」

雄一「ならいいや、さて頂きますか！」

真北「いやあ～お腹すいたから……沢山食べますか！」

明久「さて何から食べよつかな」

僕の目の前には、サンドイッチ、ケーキ（たぶん買ったやつ）、その他もうもろ沢山おいてある。

雄一「いただきます」

さて、僕もたべますか！！

4th side

4th 文月学園…匂うな《日記》どうりなら此処に9thが現れ

たらしいが……

12th 「文月学園になにかありますか?」 4th 「

4th 「……何の話だ?……といつても駄目か」

12th 「俺の『口配』『学園前に不審者がいるとな  
まさか』『までバレていると』

4th 「何のようだ?俺を殺しにきた?……訳ではないな

12th 「少し協定を結びたくな

4th 「利益がないと思つが?」

隙をついて俺を殺そうとしてきてるのか『口イツは!』

12th 「俺の名前は天草翔だ」

4th 「俺の名前は空野佑樹やまとひでき雑誌記者ざっししょくしゃをやつして『み

佑樹』後忘れていたが俺の『口配』はこうでて『み

「み』でてこの『み』はこうでてこの『み』

同時刻

みより「1stの奴鼻血を出して倒れるか……笑えるな!ハッハハ  
ハッハハ……つて笑つてる場合じゃねな

ドアに向かつてそう呟くと。

？「計画しなくてもいいじゃろ……僕は普通の武器商人じゃよ……お前さんの言うとおりじやつた」

みより「信じるよ」一力爺さん

二力「うそは…………じゃつた」

みよりは口角を引き上げてから「いつまに放つた。

そして一人の声が重なった。

みより 佑樹「未来日記所有者の本格的な戦争が始まると予知された」



海だ！ 夏だ！ 水着…… 鼻血がとまつばへんーー（後書き）

タイトル変えようかな………… 悩んじやてるよ僕…………

未来日記所有者 人物

1st 吉井明久

日記 無差別日記

無差別日記

自分を中心とした周囲の未来を無差別に予知する能力。

未来日記の中では莫大な情報量を誇るも、一字一句自分の事は書いていない。

そしてこの日記は、明久主観のため偽情報が流れた場合、間違った未来が日記にでてくる。

2nd 不明

3rd 岸本高来

年齢 63歳

特徴

スラックスにシャツにネクタイをし黒色の白衣を着ている爺さん。

髪の毛は白色でオールバックにしている。

### 技術開発日記

高来が所持している日記で、実際の日記はパソコンでテウスも想像がつかないものも作ってしまう。

自分が未来で作るであろう、道具の設計図が書いてある、他の日記所有者とは違う何年後の未来が書いてあるかは、知らない。

現在開発しているもので

Thatcher

敵の動きを先に感じ取り、未来日記みたいに更新される、欠点は一回予知すると途中で書き換わることは無い。

magnum

自分の脚力を上げる、人間では不可能な動きをする事ができる。

4sh 空野佑樹

年齢髪の毛は黒くテンパ、つり目の赤眼、中肉中背鍛えている訳でもなく鍛えていないわけでもない。

日記　スクープ日記

スクープ日記

「レから起るであろうスクープが予知される。

未来日記所有者同士の戦いは、死者、行方不明者、ビルの崩落など  
があるため予知されやすい。

スクープのためなら命も賭けるという信念を持っている。

結婚をしており妻と子供がいる。

5th 不明

6th 不明

日記 the royal diary

7th 不明

8th 不明

9th 土根崎 みより

年齢 19歳

### 特徴

身長はそんなに高く無く、左の歯が牙のよつに尖つてゐる。

まだ幼さが残る顔立ちでもあり、変装する事もたたある。

田記 皿口田記

皿口中心田記

自分の思ったことを予知する事ができるが1日1-2回と限られてい  
るため最強の田記でもあり最弱の田記でもある。

ただし、DEADENDS<sup>死胡同</sup>は関係なくでてくる。

10th H藤愛子

田記 武装田記

武装田記

自分のこれから使つ武器、防具の出所や武器の作り方なども載つて  
いる、他にも敵がどんな武器を所持しているかなどが書かれている。

11th 不明

年齢24歳

### 特徴

何もかもを見透かすような、紫色の目、そして髪の毛は茶色で目元まで伸びている。

今まで、眼鏡をかけており生徒からは「地味」というあだ名が付けられていたが、今はコンタクトに変えており、先生の中では初のファンクラブができている。

日記 教師偵察手帳

教師偵察手帳

学園で起きるであろう事が書かれてた手帳。

未来日記の中では珍しく携帯ではない、しかし学園で起つた事件は詳しく書いてあるため「学園限定の無差別日記」とも言える。

学園外の事も書いてはあるものの情報量はかなり少ない。

## 口算せながら消える（前書き）

話の内容が思いつかない何て最近あるんです  
、結果を決め手から話を書いていくのですが結果が思いつかない…  
…まあそんな事は気にせず本編へ

日常はすぐには消える

明久 side

結局あの後、ガヤガヤ騒いでるウチに夜になってしまった。

明久「寝る場所は、ここに書いてあるからここを見てね」

雄二「おい、待て、何で俺は外何だ?」

明久「気にしたら負けだぞ雄二」

雄二「は外で充分でしょ」コラ何だし。

翔子「……私と翔香は一緒に部屋でいいよ」

真北「俺と和樹は車で寝るから女子達は部屋を使ってくれ」

康太「……同意見だな……そう言えば秀吉がいない」

秀吉「ワシは、ずっとここにあるが?」

明久「分かった秀吉と木下さん一緒に、関節はそつちには回らないはずだよ!…」

何で関節技かけられてるの!…秀吉は女の子じゃん。

秀吉「ワシは男じやよ」

愛子「しかし見れば見るほど、優子にそっくりだね」

明久「一応寝る場所決まったね！それじゃ風呂に入ろう！」

康太「…風呂…ブシャ…！」

夕紀華「土屋から鼻血がでてるよ」

澪「ゆ、輸血パック持つてる人いませんか？」

明久「秀吉！AEDを雄一は心臓マッサージをして僕と真北で輸血パックもつてくるから」

雄一「風呂で何を妄想したんだ！」「イツは」

和樹「流石、混浴とかにつながったんだろ」

そして僕達による、ムツツリー二復活作業が始まり、予定より風呂に入るのが遅くなってしまった。

車

明久「いや、しかし今日は疲れたね」

真北「確かに、おい和樹飲み物ここにあるか?」

和樹「無いよ……とつて」ようか?」

真北「いやいい、自分でとつてくるわ」

真北は、車から降り歩いて向かつて行つた。

明久「雅樹はどう、思つ?」

雅樹「主語がねえからわからねえとしか言えねえよ」

和樹「同感だな、何か後ろの車やけに静かだな」

突然車の扉が開いた。

真北「な、何だよ……まさか俺がいたのわすれたか?」

撤回する、後ろが静かじやなくて、僕達がウルさいんだね。

真北「しかし、明久の家は凄いな飲み物の種類がハンパなかつたぞ!」

明久「しかし、一泊二日は短いね」

和樹「花火何かあげたら、楽しかつたかな?」

雅樹「また今度やればいいよ」

ザザザザ

明久「ん？……今の音！」

未来が書き変わった！

こんな、楽しい事がいつまでも続けばいいと願っていた……分かつてはいた、しかし大事なかけらが僕の手からこぼれ落ちた。

ドッカ――ーン――――――！

僕達の車は何メートルは吹き飛ばされ、しかも何回も回転した。

雅樹「な、何が起こった！」

明久「車からでよう！」

車から出た、僕が見たのは想像を超えた世界だった。

真北「雄二とかが乗ってる車が燃えてる……」

雅樹「……嘘だろ」

そして車から少し離れた場所に人を引っ張っている男がいた。

明久「いや！まだ生きてる！」

真北「走って向かうぞ！」

和樹「……生きててくれよ！」

そして僕達が雄一達の元にいくと

雄一「何とかギリギリ……生きて……られたぜ」

秀吉「ムツツリーの……あ、しこ」

秀吉が指をさしたほうには、足に鉄が刺さってるムツツリーが倒れていた。

康太「い、一生の不覚……だ」

和樹「だ、誰がこんな事をやらかしたんだ！！」

？「いやいや、まさか死なないとは思わなかつたよ」

明久「誰だお前！」

？「私が？私は岸本高来未来日記所有者だ」  
きしもとたかき

愛子「アツキー！！大丈夫！」

高来「お前は……10thだな」

雅樹「くそー女子をこんな危ない奴と戦わせるかよー！」

高来「ハアー無駄な犠牲を」

高来は、懐から拳銃を取り出し雅樹の腹に発砲した。

雅樹「クバア！」

明久「雅樹！……高来！ふざけんじやねえぞー！」

高来「年上には敬語を使うものだよ、 1st」

雄二「和樹！雅樹を連れて逃げる！真北はムツツリーーと秀吉をー」

和樹「生きるよ…雄二」

真北「コイツらを安全な場所に連れてつたら、戻つてくるからなー」

雄二「明久行くぞ…工藤、お前はどうする？」

愛子「もちろん、<sup>ハハ</sup>日記を使うナビ」

携帯をポケットから少し見せた。そうすると雄二は、薄く笑い。

雄二「おいー3rdこいつらには3人も日記所有者がいるんだぜ？」

高来「それは、参ったしかし大人を舐めるなのは良くないな……教育をしなくては」

愛子「僕達しては、大人に反乱するのが趣味だからね」

そして、後ろの車がもう一度爆発したとき、戦闘が始まった！！

口算せずに消える（後書き）

オリジナル小説書きました！

ぜひ見てください

倒す敵はただ一人！

明久 side

雄二「オラア！…」

高来「甘いな、時に坂本少年、君はタバコを吸つたことあるかね？」

雄二「未成年者だからすうわけないだろ」

高来「箱からタバコを取り出すとき、指で箱をトントンと叩くだろう？私は子供の頃、あの動作がとてもカッコ良く見えてね…意味が無くとも、お菓子の箱をたたいたものだ」

雄二「話が長い、家の学園長みたいだな<sup>ババア</sup>」

高来「年寄りは、そんな者だ、今の君がしている事はそれと同じだよ」

高来はポケットから、タバコを取り出すとそれをトントンと叩いて一本出した。

明久「僕には、何が言いたいのか分からんんだけど」

雄二「とにかく、殺したくなるような事を言つてている」

高来「ふうータバコとは吸つてみればわかるがとてもいいものだ、気持ちが落ち着く」

明久「—」「チン中毒?」

タバコを持ち運びができる灰皿にしまつと高来は。

高来「いつもはポイッと捨ててしまうのだけどね、子供に悪影響がありそうな事はしないのだよ」

その時、明久の持つている携帯が「ザザザザ」ヒノイズ音を発した。

高来「時に坂本少年、最先端科学技術とは素晴らしい物だな…フルボれた道具など、最先端科学技術の前では、ネズミが人間に戦いを挑む物だ」

雄二「説明が長いんだよーーー」

雄二「が高来に殴りにかかるつとしたとき、まるでそれが予知されたかのように避けられた。

雄二「なつー」のジジイーーー」

高来「日記は完璧だよ、しかし完璧ゆえに欠点があるんだよ

そしてーーごめのノイズ音がなつた。

明久「なつー雄二ソイツから離れてーー」

雄二「待てーー日記どひーーー嘘だらー」

高来「それが、欠点何だよ坂本少年」

ポケットから出した投げナイフが雄一の本に飛んでいった。

愛子「ま、間に合わない！」

愛ちゃんもナイフを取り戻していたが、当てられそうにならしく。

？「困るね、私の生徒に手を出してもらつては」

？「スクープどうりだな！、静岡県熱海市かの有名な吉井家別荘地で爆破事件！犯人は日記所有者！…とな」

雄一「地味？」

翔「酷いな坂本君、せっかく助けにきたのに

佑樹「早速だ、がお前の日記は危険何で……排除させてもらつては」

高来「失礼だな、私の日記は「技術開発日記」どこが危険だと言えるんだね」

高来はその場で一回転をした。

佑樹「当たり前だろ、俺の日記は「スクープ日記」お前が違法開発をしていることを予知してんだよ！」

高来「ハツハハ！私が絶望したのは、15歳の夏のころ……一度これぐらいの頃だな、私は花火を見た……その時とても僕かつたものだ、一瞬の輝きはとても美しかった、だから私は自分で造つてみた……しかし、どれだけ沢山の花火を造ろうと僕く全て散つた」

雄二「もつ一度言つ、話がなげえんだよ」

高来はふうと笑うと、スマートフォンを取り出し何かを操作し始めた。

翔「死ぬきになつたか」

高来「そんな事は無い、コレはただの小手調べだ」

高来の持つ携帯から、ピーと電子音がすると小さく笑つて。

高来「私はまだ死ねないからな」

そう呟いた後、高来を取り囲むように地面が盛り上がつた。

翔「な、なんだ！」

そして僕達の立つている場所が爆発した、そして僕は木に全身をぶつけた。

見えなくなる、視界の中最後に聞いたのは。

高来「ここで殺すの勿体無い、私はそんなつまらない殺しはしないんだよ」

高来は海の方から来た、ヘリコプターに乗つていなくなつた。

そして僕は氣を失つた。

倒す敵はただ一人！（後書き）

すいません！

早速一人殺そうと思ったのですが……殺せませんでした。

## 嵐の去った後

明久 side

文月病院

……瞼を開けようとすると、僕の視界が白く塗りつぶされてしまう。

? 「……お……」

お? ……誰だ君は? 僕はそんな声の子供じりねエが?

? 「い……ま……の?……そ……ろ起きな……」「日記」「わすよ?..」

僕のこの寒気がするような事を言われ起きた、正確にいつと瞼をか  
ツと開いた。

愛子「やつと起きたよ……それで大丈夫?」

明久「僕は、何日か寝てたの?」

雄一「2かかん、だな大丈夫か明久？」

僕の目の前には、頭に包帯を巻いた雄一と絆創膏とシップを見えるだけでも、かなり貼っている愛ちゃんがいた。

かなり強く、頭を打つたことしか、覚えてないよ。

愛子「簡潔言つよ……僕達は3rdに、負けたそれもコッチには、5人も日記所有者がいてね」

雄一「完敗だ、後他の皆は先に帰した」

明久「僕が起きることが分かったの？」

明久がそう雄一に尋ねると、ドアを叩く音がした。

翔「入るよ、吉井君」

明久「はい、どうぞ入ってください」

翔「あの時ぶりだね……脳にかなりのダメージがあつたようだが」

明久「そのよひですね、でもこのとおり元気ですか」「う

雄二「では、コレからのことを考えよう」

愛子「しかし、あの時は焦ったよね～それじゃあ自己紹介でもしますか、僕の名前は――藤愛子、田代は……内緒よろしく」

勝手に自己紹介を始めた愛子ちゃんはまくちに田代に向かって囁いた。

愛子「次はアッキーだよ」

明久「えー、と僕の名前は吉井明久、よろしく」

雄二「俺の名前は坂本雄二……うそだよろしく」

あれそんなことまで言つたの？ 何番田までは言つてないんだけど？

翔「名前は知つてると思つから、いわないでおくれよ、僕は12歳よろしくね田代さ

先生が説明したあと、雄一が一枚の紙を出して、それを僕のベットについている机に置いた。

雄一「現在、日記所有者で分かっているのが：1st・3rd・4th・9th・10th・12thだな、このうち3rd以外は味方と考えていいだろ……問題は5thだ、みよりの情報だと、文月学園にいるといわれている」

翔「しかし何で、こんなに文月学園に集まっているのだろう」

雄一「それを考えるのは後です、俺達から見ても、3rd・5thは気をつけたほうがいいと思つ」

愛子「逆に、5thは僕達の存在を知つているの？」

雄一「知つていた場合……俺達にはDEADENDしか待つていな  
い」

何で、僕達にはDEADENDしか待つてないの？

翔「なる程……だったら少し日記を使うのは控えよう」

愛子「もつづかれているとみて行動するのか……スリルありますわ  
でしょ」

明久「ならまづ、5七十を探してみよう」

雄一「遠田に俺はそう言つてんだよ、話を聞け」

ん?突然愛ちゃんが周りを見だしたけど、どうしたんだろう?

愛子「テンパのおじさんいね」

翔「アイツは情報記者だとか」

雄一「とにかく、5七十を探し出してから、もつ一度会談だ」

皆「了解」

そして、皆外出ていった中一人病室に残つた明久携帯を取り出した。

明久「『メンね皆…………もしもし』

携帯からは、ノイズがかかっているが若い女声がした。

?「どうしたの? 明久君?」

明久「今どこにいる?」

?「いまあ～コンビニだけど……そっちには行けないよ」

明久「分かってるよ……後どお? そつちは?」

?「あまり変化は無いねえ」

明久「了解じゃあね」

?「バイバーイ」

明久は電話を着ると窓から見える空をみてつぶやいた。

明久「僕は、いや俺はいざれ裏切らなければならない時が来るなんて」

とある場

ここには一つの研究所があるそこには、黒い白衣を着て、白髪の男そり、岸本高来である。

その研究所の中に音も立てず、少女が侵入した。

？「ねえ～何してんの？」

高来「き、貴様！だ、誰だ！」

？「私？…ん、ん私は「6th」だけど」

高来「どうやつてここに侵入した！」

？「声がデカい……普通に入ってきたけど？」

高来「そ、そんな事は無いー。」このセキュリティーはそういうの研究所の5倍はあるんだぞー。」

?「それは、思つた…………でも私の日記の前では無意味だけどね」

6tchはポケットから携帯と拳銃を出し高来の足を撃ち抜いた。

高来「ぐあああああー…………」の小娘がーー。」

?「一々いひむせえな」

6tchは、高来に拳銃を突きつけしゃがんで話していた。

?「本當もあー無口の振りつて難しいんだよねー明久は」

高来「く、クソ!私はま、まだ死ねない!」

?「つるせーな、命じいする時間があつたら……抵抗しろよ」

6thは、高来に拳銃を発砲した、多少は抵抗したが、すぐに動かなくなつた。

高来が最後に見たのは、返り血を浴びた少女とその少女の左右違つていた目であつた。

風の去つた後（後書き）

雄一「皆、誤解してこぬようだが俺の日記は眞壁日記じや なこば」

## 戦火 戦争はもう始まっていた！（前書き）

今回の小説から少し書き方を変えたいと思います。

## 戦火 戰争はもう始まつていた！

7 / 28 6時28分

文月学園から少し離れた公園に少女が一人寂しくブランコを揺らしていた。

それを見た一人の男は、鞄の中からチョコレートを出してその女子に渡そつと歩き始めた。

佑樹「そこの、お嬢さんこんな時間に何をしているんだい」

? 「何もやること無いから居るんだよ」

佑樹「そうか……なら家来るか？」

? 「軽いナンパ？」

佑樹「こんな、ガキナンパしないよ」

見るからに不機嫌な顔をした、少女は大きな一步でひきびき歩いて

きた。

？「誰が子供ガキだ！私は、16歳だ！」

佑樹「それは、悪かつたな……だつたら家帰れ」

？「悪いね、それはできないんだ」

ザザザザ！

突然の出来事に頭がついていかなかつた空野は、少女の方を見るも自分の腹に変な感触があることにきずく、

佑樹「グフウ……まさ……な、俺……か事……件に……ハア……ハア……まさ……こまれる……なん……うう！」

？「つるせーな！お前が日記所有者だつてことぐらい分かつてたんだよ！」

さつきまでとは考えられないほどの、大声を上げて空野から、バックステップをとり離れた。

? 「お前達には借りを返した……しかし、あのじいさん勝手に未来日記所有者とか名乗りやがって！」

佑樹「どう…ハア…いうこと、だ」

? 「分からぬかぬ」！ もう3「dは死んでんの、 でもアイツを殺すとは！ 厄介だな」

佑樹「DEADEND...ハア...後3分で死ぬのか...」

血に塗れた手で、携帯をあけ画面をみていると、それをあざ笑うかのようにこちらにナイフを向けていた。

? 「お望みどおり、3分後に殺してやるつか?……でも残念ながら時間が無いんだ」

? 「うるせえな！ ！ わざとわざと死ねよ。」

傷口にナイフの柄を当て、ゴリゴリとえぐり血が砂に飛びとても可哀想すぎて見られないという状況が続いている。

佑樹「……………オレハ……………ダツテナ……………」

空野は最後まるで自己満足したかのように笑つて死んだ。

? 「つまらねえや…………しかし人を殺すのは思つたより簡単だね」

その少女の後ろから、金髪にサングラスをかけた少年が現れた。いやゆる、チンピラみたいな格好をしている。

? 「お前の口記… 間違えた〔孫口記〕は強いな」

? 「そんな事無いよ～」アナタの「孫田記」の方が強いじゃない……  
そろそろ帰らないと怒られるね」

？」「マジですかー…………最悪だ…………早く帰るぞーーおつづーー指紋とか付け  
てないよな？」「

？「……ノーハメントで…とこつか日記で見なさいよ…！」

その少年は、携帯を開き少し操作したあと笑顔がこぼれた。

？「美優！俺達が捕まへブシ！」

美優「こんな所で捕まるとか言わないで…しつーーー！」

？「悪いい、悪いい確かに俺のコイツ『警察情報流出日記』は便利だから」

美優「そんな事聞いてないわよ…早く行くわよ…」

？「おつー…」

そして二人は闇の中に消えていき、バイクのエンジンの音だけが響いた。

戦火 戦争はもう始まっていた！（後書き）

この書き方が嫌なら……教えてください！その場合直しますので……  
それでは！

吉井は布団の上で一回転をして、気持ちよく寝ている。

明久「ん……」

その風景をみると、休日を楽しんでいるという風にも見える。季節は夏、学校がテロリストに破壊されたため休みになっていた。

明久「ん？ 8時かまだ寝れ…………ないよおおおお…………」

明菜「明兄どうしたのー？」

明久「大変だ！ 今日学校があつたんだ！」

明菜「そんなの聞いてないよーとにかく早く準備して、なんか作るから

急いだように、明久の部屋を出て行くと明久は何故か睡魔に襲われたがそれはどこと無く消えていった。

玲「明くん起きないとキスしますよ」

明久「起きますよー起きてますー起きてるから三段活用ー！」

玲「三段活用になつてませんよーでは罰ゲームとして……」

明久「なんで罰ゲームなのー！」

玲「あらっお姉さんに逆らひのー。」

明久「くつー！」

露骨に嫌そうな顔している、明久に何かを思いついたかのうに少し微笑んだ。

玲「では、明くん3日以内に彼女をつくってください…出来なければ私の命令を一つ聞くこともし、本当にもし彼女が出来れば…何でもします」

明久「おかしいよね！何で「何でもします」の時顔が赤くなるのー！まあ良いけどや、姉さんみてな3日以内に彼女を作つてあげるから

！」

明久「そんな事いつてもできる訳ないよな……ハア確かに僕は美少年だけど……」

雄一「どうから見ても、残念な顔だけだな、秀吉」

秀吉「自覚症状の無いハーレムは見ていくだけでいらっしゃるのじやろ? ムツツリー!」

康太「……告白したら誰でもつき合つてくれそう」

明久「何で皆がいるの! !」

まるで尾行していたかのよつて、後ろにおり、そもそも当然のよつて明久の話に加わっていた。

明久「事実はね……姉さんの罰ゲームでね」

秀吉「主語が無いから分からんのじゃ」

明久「「めん、「めん…」んな事が！」

明久は今日合つたことをほぼ一字一句抜かさずすべて伝え、

明久「この危機的状況分かる？」

雄二「親友としてお前が…可愛そうな事にあつていると…」

明久「雄二…」

雄二は一拍ためてから…

雄二「本当に飯が上手いは…今日の朝「」飯す「」く上手かつたからな  
！」

明久「親友にそんな事言わないよ…酷いな…！」

秀吉「でも、実際言つておるではないか」

秀吉がため息混ぜりにそつ啖くが、実際少し顔が笑っている。

康太「……偽装彼女作戦」

明久「何勝手に命名してるの！？」

雄二「悪いが明久……困っている明久をみると……尋常ないぐら  
いイジメたくなるんだ」

明久「尋常じゃないのは君の頭だよ！？」

雄二「まあ、頑張れよ」

秀吉「期待してあるぞ」

康太「……カメラは任せろ」

自信たっぷりにこちらにカメラを向けているが康太だが、

明久「何を任せればいいの！？」

8時34分 Aクラス教室内

雅樹「よつー明久、何かやつれてるな」

明久「実は大変な事があつたんだよ……」

大和「何があつたんだい？話してみなよ明久君」

また、明久は雄二達と同じように一字一句抜かさず、伝えた一様念のため近くにあつた、盗聴器と隠しカメラを壊しておいた。

大和「なるほど、それは大変だね、僕でよければ力になるよ」

雅樹「俺もなるよ、しかし……嫉妬の渦でクラスが破壊されそうだな……」

明久「どういふこと？」

雅樹「親友として、一言言つてやるよ、選択によつては……身を滅ぼすぞ」

大和「……なるほどね……しかしそうなると、安全かつ……明久君が無傷で成功できる方法は……」

大和は、目をつぶり真剣に考えていたが、突然何かが切れたかのように目をガツ！と開いた。

大和「誰にもバレずかつ、無口の子だから……」

雅樹「霧島姉妹のどつちかじやないか？」

明久「真剣に考えてくれてありがとうー！」

大和「当たり前だよ、親友何だからさ」

明久達がそう話していると横から誰かが話しかけてきた。

和樹「何話してんだ？」

大和「君は、古川君だつたかな？」

和樹「和樹でいい、で？何を相談していたんだ？」

大和「明久君の今後の未来についてかな？」

明久「僕の未来？そんな大変な事になつてたつけ？」

明久？クズ久？アナタはどうち？

明久「だつたら、二人に頼んで……『ゴメン』

雅樹「クズ久になるとこうだつたな」

明久「だ、だよね」

若干冷や汗を流しながら、返事をした明久だが心中では、「完璧な考え方だよ」とクズの道を突っ走っている状況である。

大和「しかし、いい案がなかなか見つからないね」

和樹「確かに、このクラスが血の海にならないようにしなくてはいけないし……」

明久「その意味が分からんんだけど？」

翔香「何話してるの…HR…はじまつて…るよ」

明久「『めん、『めん実はん、ん！』」

雅樹「気にしないでくれ霧島！」

雅樹は明久の口を封じ必死に隠そうとするも、時遅く愛子と翔子がこちらにきていた。

愛子「君達は何を話してたのかな？僕の事？それなら何でも教えてあげようか？勿論実技で」

明久 康太「ブシャ——！」

和樹「どこから來たんだムツツリー——！」

康太「……神が俺を呼んでいた、勿論カメラは持つてきている

雅樹「あんなに鼻血出てたのに治るのはや——明久まだ治つてねえぞ」

和樹「なんだ？工口神か？ビツセビツカで盗聴してたんだろう？」

呆れ顔で和樹はムツツリーーを見ているが、周りでは大変な事が起きていた。

雅樹「明久大丈夫かあ！」こんな出血量テレビでも見たことねえぞ！」

明久「わ、我が人生……ゲームと漫画とテレビ以外悔いなし」バタ

雅樹「悔いだらけじゃねえか！！」

康太「……輸血パックならここにある」

翔子「……私がやるよ」

丁寧に翔子は輸血パックを明久につないだ。

和樹「少しばか減しろ、上藤このままいくと明久が逝く」

明久「…………はっ！お、僕は何をしてんだ？」

康太「……大丈夫か明久」

和樹「明久も少しは見ないように努力しin」

明久 康太「（……）何を言っているんだ！偽でもパンチラは男のロマンだ」

明久とともに康太も親指をたててグーのマークをしている、全くといつていいほど反省の色はない。

翔子「……話を戻すけど、何の話をしていたの？そして何で隠したの？」

大和「それは聞かないであげなよ、明久君には明久君なりの大変な事があるんだから」

愛子「確かにヤツトの意見もあつてるね」

大和「なるほど、いつの間にか僕のあだ名は決まつたんだね」

愛子「ごめん、嫌だつた」

大和「別に構わない、最初言つたでしょためらわず話してつ

愛子「分かったよヤツ」

いつの間にか、とても仲良くなってる愛子、大和を放置し話は結構進んできている。

明久のプライバシー関係なしに話が進んでいった。

雅樹「よし決まったな！霧島妹頼んだぞ」

翔香「分かった…頑張る！」

明久「お願いね、霧島さん」

大和「それじゃあまず彼女に見えるようにしないとね」

笑いながら言う大和の顔は、少し歪んでいる笑いだった。

## 作戦！？（前書き）

お久しぶりです！！

色々と忙しくて更新が遅れてしまいました！（新規小説を書いていた）

それではどうぞ！！！

作戦！？

明久「な、何でそんなに顔が歪んでいるの？」

大和「いやいや、そんな事は無いよ僕はどこから見ても普通じゃな  
いか？」

はたから見てもふつうの笑い方をしていない大和を気にし  
て見ている人はいないものの、明久は少し震えていた。

愛子「で、早く案を教えてよ、僕気になつてきた」

翔香「私は…何をすれば…いいの？」

大和「具体的には、一人には帰り手をつないでかえつてもうう」

明久「それだけでいいの」

大和の説明がすくなかつたせいか呆気にとられてる明久に翔香は他の質問もしていた。

翔香「ルートとかも考へてあるの？」

大和「考へてあるよ、出来るだけ人目のつく場所を歩いて貰いたいんだ。僕としては、繁華街・大通りをできる歩いてくれるかな」

明久「それは構わないけど…………それにどんな意味が？」

大和「明久君のお姉さんはよく買い物に行くかな？」

明久「まあ…………ね行くけど…………」

うなだれてい明久を見て、ふつと笑うと大和は何かもう一つの作戦を考え始めたようで、手を顎に置いた。

大和「ならこの方法はやめたほうがいいな…………ほかの方法…………んんなかなか難しいね」

和樹「ここまで来たら…………もお行つてくれば？」

明久「どこまで来たの！？しかもどこで行くのさ！？」

雅樹「凄いな…一氣に「いつも」こめるなんて……芸人になれば？」

明久「ならないよ…！それより皆真剣に考えてよ…。」

男達（大和以外）「いや考えんの疲れてね」

明久「考えてないでしょ…！しかもムツツリー一生き返つてね…。」

康太「一応さつきから生き返つてきてるが先ほどのもつ一回死んでた

輸血パックを腕につけて壁に座りながら呟いていたが……見て目はカツ「いいものの、実際はカツ「悪い。

大和「何か嫌な予感がするんだよ……」

愛子「何かいつた？」

大和「大丈夫、気にしないで」

愛子「ならいいや、他の案を皆出してみて、何でもいいよ」

大声で言いつと、近くにある椅子に腰を掛けた。

和樹「そんな事言われても無いんだよね」

雅樹「ホイホイネタなんて思いつかないしな」

翔子「……話す内容が尽きなければ大丈夫だと思つ」

大和「確かにね……でも一つ心配な」とがあるんだ……問題点があるんだよ」

大和は少したためてからこおいつた。

大和「明久君のお姉さんの無茶ぶりがどれほど過激かにもよるんだよ」

考えではなく……殺し合』(前書き)

皆さんお久しぶりです(トート)

内容が思いつかなければ新規小説も書いていて……言い訳はもうしません

それでは久しぶりに、どうぞ!~

考えではなく……殺し合い

明久「僕の姉さんが過激！！そんなの100%当てはまるよー。」

大和「自信満々に言わなくていいよ明久君、そうか例えばどんな所が過激なの？」

明久の顔からは、冷や汗がダラダラと流れている。顔がだんだんと真っ青に染まりだす。

明久「お、思い出しだけでも吐き気がしてかたよ、昨日……」

~~~~~

回想

明久「ん、ん——ンン」

？「……」

明久の寝息だけが、暗闇の中で響く。その中で、スースーという音が

明久「な、何をしているのさ……姉さん……つて何で僕のズボンが無くなってるの……？」

玲「明君の最初を奪うためです。ズボンが無いのは邪魔だったからです」

明久「冷静にそんな事言わないでよ……僕が間違ってるみたいじゃないか……！」

騒がしく騒いでいる明久の頭に手を置き、2、3回撫でると、パンツを脱がそうと手をかけ始めた。

明久「そつだよね普通は……その普通がありえないんだよ……！姉さん……落ち着いて考えれば納得するとでも思つたの？」

玲「あれ？納得しないの？……でもコレは着て「明兄に何してんの？流石の玲姉ちゃんでも許さないよ？」……明菜子供はもう寝る時間よ？」

明菜「お、お兄ちゃんは私の物何だから……」

明久「はいいい！――！」

極度のブラコンが全開となつた明菜は、明久に両手を広げ抱きついできた。

明菜「ね～お兄ちゃん！私が一番だよね～ね」

明久「フギヤアアアア！」

~~~~~

明久「つていう悪、ヘブシ!! 何で殴るんだよムツツリーーー! 雅樹!

康太「…………どこが悪夢なんだ……最高だろ！」

康太「……そんな事は知つて居る許さない」

真つ赤なオーラを発している一人の後ろにいつの間にか、黒いオーラをまとった、愛子、翔香、翔子と声を殺して笑う大和がいる。

明久「いち、じ退散！！」

翔子「……話はしつかりと聞かせてもらつー。」

翔香「説明しても……許さない……けど」

愛子「じつくり聞こうか～お兄ちゃん？」

明久「僕はお兄ちゃんじやない！！しかもいつの間にか何で三人の手には釘バットが握られてるの！！」

獣「（……）ウオオオ！！早く死ね明久！！」

このあと、2時間に及ぶリアル鬼ごっこが始まった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8529x/>

---

明久と水泳と幼なじみ

2011年12月30日23時47分発行